

五十年のあゆみ

茨城県身体障害者福祉協議会50周年記念誌

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会

茨身協會旗



歴代会長



初代 川井 国 男
自 昭和42年5月19日
至 昭和47年9月10日



二代 佐川 清 一
自 昭和47年9月10日
至 昭和50年7月12日



三代 大 脇 一 夫
自 昭和50年7月12日
至 平成 5 年 5 月 24 日



四代 野 本 善 巳
自 平成 5 年 5 月 24 日
至 平成 11 年 5 月 24 日



五代 皆 藤 庄 三
自 平成 11 年 5 月 24 日
至 平成 13 年 5 月 21 日



六代 中 山 康 雄
自 平成 13 年 5 月 21 日
至 平成 20 年 5 月 19 日



七代 荻 津 和 良
自 平成 20 年 5 月 19 日
至 平成 26 年 5 月 29 日



八代 高 木 昇
自 平成 26 年 5 月 29 日
至 現在，在任中



ごあいさつ

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会
会長 高木 昇

本協議会設立50周年記念誌「五十年のあゆみ」を発行するにあたり、本協議会設立の経緯を簡単に紹介申し上げます。

昭和39年(西暦1964年)開催の東京オリンピックにつきましては、皆様も深く印象に残っているかと思いますが、東京パラリンピックにつきましては「パラリンピック」という言葉が初めて使用された大会でもあり、当時、国民の関心は、まだ、低かったと思われま

しかし、この東京パラリンピックには多くの外国選手も参加し、外国人選手の「明るさ」、「自立心の強さ」そして何よりもその「堂々とした態度」が日本選手に大きな衝撃を与えるとともに障害者の社会参加の刺激にもなり、茨城県にも是非、県レベルの統一された身体障害者福祉団体をつくろうとの機運が高まり、昭和42年に茨城県、県立リハビリテーションセンター、県社会福祉協議会など関係機関の御支援のもと、本協議会が誕生しました。

また、昭和49年には「第10回全国身体障害者スポーツ大会まごころ大会」が本県で開催され、当時の皇太子同妃両殿下(今上天皇皇后両陛下)が御臨席され、心温まる励ましのお言葉を頂戴しました。そのお言葉が今日まで、私たちの心の支えになっております。この「まごころ大会」を契機にスポーツを通して、私たちの団体の活動も一段と活発になりました。

来年は、本県で「いきいき茨城ゆめ大会」が、2年後には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

前回の東京大会との大きな違いは、今東京大会においては、パラリンピックがオリンピックと同格・同等に扱われていることです。

私たち障害を持つ者にとりまして、大きな意義を感じております。

障害を持つ者や障害者福祉団体の努力はもちろんのこと、国、県等による障害者に係る法律や権利条例の制定、啓蒙、関係機関の御支援、御協力、さらには、テレビ等マスコミによる報道を通して、国民の間に障害や障害者に対する理解が徐々に広がって来ていることの現れと考えております。

現在、私たちの団体は会員の高齢化並びに会員数の減少という大きな問題に直面しておりますが、1年後、2年後に開催されます、県や国を挙げてのこれらの大きな大会・行事を契機として、本協議会の活動がさらに活発になるよう、なお一層、努力して参る所存でございますので、皆様方の御指導、御支援をよろしくお願い申し上げます。



祝 辞

茨城県知事 大井川 和彦

この度、一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会が設立50周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

高木会長をはじめ、歴代の会長並びに福祉活動の推進にご尽力をされた関係者の皆様、また、身体に障害を持ちながら、広く社会でご活躍されている会員の皆様のご努力に対し、深く敬意を表するとともに、昭和42年の設立以来、関係団体との連携のもと、障害者の福祉向上に意欲的に取り組まれておられますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、我が国で急速に人口減少や少子高齢化が進行する中、社会経済のグローバル化や人工知能の劇的な進歩など、将来の予測が難しく混沌とした時代を迎えております。

県では、こうした時代の変化に的確に対応し、これからの茨城を切り拓いていくため、「新しい茨城づくり政策ビジョン」を策定いたしました。このビジョンは、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念とし、「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい人財育成」「新しい夢・希望」の4つを柱に、これから県が取り組むべき政策の方向性をお示したものであります。

とりわけ、障害者福祉の充実につきましては、「新しい安心安全」に明確に位置付けて取り組むこととしたほか、今年3月に策定した「第2期新しいばらき障害者プラン」においても、「ノーマライゼーション」と「完全参加」という基本理念のもと、権利擁護の推進や就労機会の拡大など、障害者施策の総合的な推進を図っているところです。

県といたしましても、貴協議会の皆様と連携を取りながら、今後とも福祉施策の充実に努めてまいりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

むすびに、一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。



祝 辞

茨城県議会議長 山 岡 恒 夫

一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会が、設立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協議会は、昭和42年の設立以来、長きにわたり、身体障害者の社会参加に関する事業等に取り組み、障害者福祉の増進に大きな役割を果たしてこられました。歴代の会長さんをはじめ、関係者の皆様のごこれまでのご労苦に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、障害者福祉につきましては、障害者総合支援法及び障害者差別解消法が施行されるなど、様々な改革が進められている中、本県では、「第2期新しいばらき障害者プラン」に基づき、「ノーマライゼーション」と「完全参加」の基本理念のもと、障害者の方々の自立に向けた諸施策を総合的に推進しているところであります。

県議会におきましても、インターネットによる議会中継に手話通訳を導入しておりますとともに、「障害のある人もない人も共に歩み幸せに暮らすための茨城県づくり条例」を議員提案により制定するなど、障害者の権利擁護と差別の解消に向け、積極的に取り組んでおります。

また、来年には、本県で全国障害者スポーツ大会が開催され、その翌年には、東京パラリンピックが開催されます。

今後、障害者スポーツに対する県民の関心が一層高まっていくことが期待される中、ノーマライゼーション社会の実現を図る貴協議会の役割は、これまで以上に重要なものになると考えております。

私ども県議会といたしましても、本県障害者福祉の向上に全力で取り組んでまいりますので、貴協議会並びに会員の皆様方におかれましても、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協議会の今後ますますのご発展を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

茨城県社会福祉協議会
会 長 関 正 夫

一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会が、設立50周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴協議会は、1967年の設立以来、身体障害者の社会参加推進など、様々な活動を通じ、身体障害者の自立と福祉の増進に多大なる貢献を果たしてきました。

これも、高木会長さんをはじめ、歴代の会長及び役員並びに会員の方々の熱意とご努力の賜物であり、皆様のごこれまでの活躍に対し、深く敬意を表する次第であります。

近年、国においては、障害者総合支援法や障害差別解消法が、また、本県では「障害のある人もない人も共に歩み幸せに暮らすための茨城県づくり条例」が施行されるなど、障害福祉を取り巻く状況は大きく変化してまいりました。

また、急速に少子高齢化が進行する中、地域でのつながりの希薄化もあり、老々介護や認知症問題をはじめ、増加する単身高齢者への支援や子どもの貧困問題、子育て支援など、様々な生活課題や福祉課題が複雑・深刻化しています。

このような状況にあって、一人ひとりが、「支え手」「受け手」という関係や、世代や分野を超えてつながり、地域を共に創っていく「地域共生社会」の構築が進められています。

こうした中、茨城県社会福祉協議会では、貴協議会を始めとする関係機関・団体の皆様と連携を図り、「誰もがその人らしく安心して暮らせる福祉社会の実現」を目指し、さらなる精進を重ねてまいります。

終わりに、貴協議会のますますのご発展と、会員の皆様の一層のご健勝をご祈念申し上げます。お祝いのことばとさせていただきます。



祝 辞

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉団体連合会

会 長 萩 津 和 良

茨城県身体障害者福祉協議会が、昨年設立50年を迎えました。誠にめでたく、衷心よりお祝い申し上げます。

貴協議会は、誕生してから今日まで、さまざまなご苦勞や喜びの上に歴史を重ね、発展を遂げてこられました。これまでににおける関係者各位のご尽力とご貢献に対し、深甚なる敬意を表する次第でございます。

我が国は、国民の真摯な努力によって、戦後の荒廃から立ち直り、世界の奇跡ともいわれる経済発展を成し遂げることができました。福祉の分野におきましても、かつては社会の中で陰なる存在に見られていた私たち障害者が、近年はボランティアの方や法律・条例に守られ、行動しやすい環境に変わりつつあります。

折しも、1年後に、本県で全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が、そしてその翌年には、東京パラリンピックが開催されます。多くの障害者が集うこのようなビッグイベントは、「合理的配慮」の提供などを実現していく、絶好のチャンスであると考えております。

設立50周年を迎えたこの機会に、幾多の試練を乗り越えながら障害者福祉の向上に尽力されてきた先人たちに思いを馳せるとともに、障害のある人もない人も共に暮らす共生社会の実現に向け、決意を新たにすることは、大変意義深いものがあります。

今後とも、障害者の未来のために一致協力して、さらなるご精進を賜りますよう念願する次第でございます。

結びに、貴協議会の今後ますますのご発展と、会員の皆さま方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。挨拶といたします。

茨身協五十年のあゆみ

年 月	事 項 等
昭和 39 年 10 月 (1964 年)	東京オリンピック開催 (10月10日～24日)
昭和 39 年 11 月	東京パラリンピック開催 (11月8日～12日) 「パラリンピックという名前が東京大会で初めて広く使用された。また、東京大会は、なによりも多くの人々にとって、障害者のイメージを転換するきっかけの一つとなった。その背景は、外国の選手たちの明るく、朗らかな様子にあったと言われている。
昭和 42 年 5 月 (1967 年)	茨城県肢体障害者福祉協議会を結成
昭和 48 年 8 月 (1973 年)	事務局を県立リハビリテーションセンターに移転
昭和 49 年 7 月	名称を茨城県身体障害者福祉協議会と改称
昭和 49 年 11 月	第10回全国障害者スポーツ大会が笠松運動公園競技場で開催される。(11月2日～3日)
平成 8 年 11 月 (1996)	青年部会を設置 (11月4日) 茨身協設立30周年記念式典を開催 (11月22日)
平成 9 年 7 月	事務局を茨城県立リハビリテーションセンターから茨城県総合福祉会館 (水戸市千波町) に移転
平成 15 年 4 月 (2003 年)	社団法人茨城県身体障害者福祉協議会に改組
平成 25 年 4 月 (2013 年)	社団法人から一般社団法人に移行
平成 29 年 11 月	茨身協設立50周年記念式典を開催 (11月9日)

茨身協活動の歩み



茨肢協結成大会 県民文化センター
昭和42年5月19日



第4回山の集い 裏筑波登山道7キロコース（昼食休憩）
昭和53年11月2～3日



第1回銀輪の集い 水戸市桜川～那珂川コース
昭和54年3月31日



福祉会員の翼 ハワイ研修の旅
昭和52年10月22～27日



第11回山の集い 第7回銀輪の集い
裏筑波登山道（真壁町鳥羽 薬師堂前）
昭和60年11月15～16日





第 10 回全国身体障害者スポーツ大会（友愛の希望で結ぶ集いの輪）
笠松運動公園
昭和 49 年 11 月 2～3 日





茨身協設立 20 周年記念式典
県立リハビリテーションセンターにて
昭和 61 年 12 月 9 日



茨身協設立 30 周年記念式典 県立文化センターにて
平成 8 年 11 月 22 日



第1回青年部会「ゆう
あいの集い・ボウリン
グ大会」神栖町アント
ンパレスホテル
平成10年6月6日

第1回青年部会「ゆ
うあいの集い・ボウリ
ング大会」神栖町ト
ーホーボウル
平成10年6月7日



第1回「ゆうあいカラ
オケ歌謡大会」
下館市県西生涯学習セ
ンター
平成10年9月20日



友愛の旅 四国 大鳴門橋前にて
平成 14 年 5 月 30 日～6 月 1 日



社団法人設立総会で発起人代表として挨拶する中山康雄会長
水戸市民会館にて
平成 15 年 3 月 15 日



第34回山・銀輪の集い 高萩市 小山ダム
平成20年9月29～30日



第34回水の集い 県立リハビリテーションセンター
平成20年8月1日



日曜交流会・クリスマス交流会「疑似結婚式」
笠間市「パークスガーデンプレイス」
平成21年12月13日



関東甲信越静ブロック「友愛の集い」主催者挨拶をする
荻津 和良会長 水戸市「ホテルレイクビュー」
平成24年9月8日



第 14 回ゆうあい卓球大会 龍ヶ崎市「たつのこアリーナ」
平成 27 年 10 月 4 日



第 1 回団体交流支援事業
日光市田保沢御用邸記念公園正門前
平成 27 年 7 月 6 日



設立 50 周年記念式典
表彰状を授与する高木 昇会長 小美玉市四季文化館「みの一れ」
平成 29 年 11 月 9 日



記念式典会場等の様子
平成 29 年 11 月 9 日

目 次

第1章	茨城県身体障害者福祉協議会の組織と歴代役員	1
第2章	茨城県身体障害者福祉協議会の 収支計算書及び主要事業の推移	11
第3章	思い出と新たな決意	39
第4章	茨城県身体障害者福祉協議会 設立50周年記念式典受賞者一覧	59
第5章	茨城県身体障害者福祉協議会の歴史	65
第6章	茨城県身体障害者福祉協議会規程	77
	・定 款	
	・広報委員会設置規程	
	・青年部会設置規程	

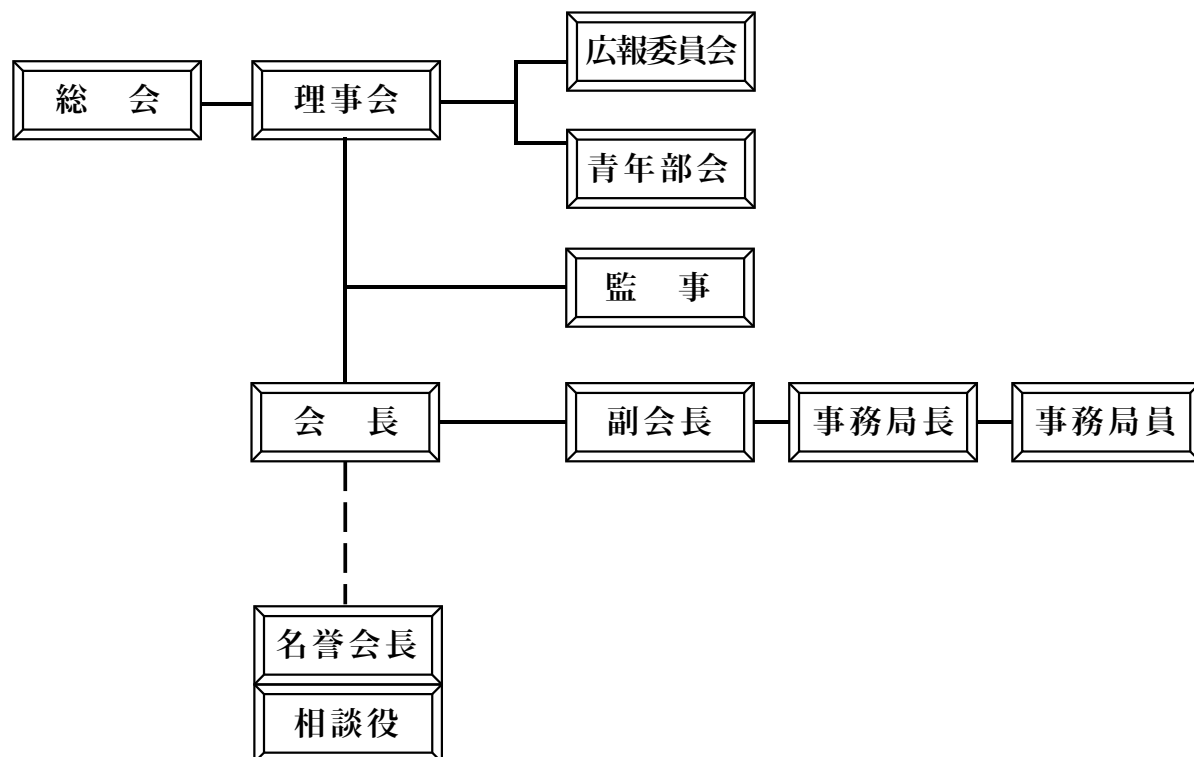
第 1 章

茨城県身体障害者福祉協議会の組織と歴代役員

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会の組織

平成 30 年 11 月現在

(1) 組織図



(2) 役員等 (役員)

会長	副会長	理事	監事
1名	5名	8名	2名

理事定数 15 名以上 現員 14 名（会長、副会長及び理事 8 名）

(職員)

事務局長	書記	計
1名	3名	4名

※ 平成 15 年 4 月 1 日 社団法人化
平成 25 年 4 月 1 日 改組 一般社団法人化

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会 役員名簿

平成 30 年11月現在
(平成 30 年 5 月 24 日就任)

	職 名	ブロック	氏 名	連 絡 先
	名 誉 会 長	鹿行	中 山 康 雄	潮来市身体障害者福祉協議会
	相談役	県西	稲 葉 富士夫	下妻市身体障害者福祉協会
1	会 長 理 事	県北	高 木 昇	常陸太田市身体障害者福祉会
2	副会長 理 事	県央	荻 津 和 良	茨城町身体障害者福祉協議会
3	〃	県北	蛭 田 洋 伸	高萩市身体障害者福祉協議会
4	〃	鹿行	松 崎 昌 樹	潮来市身体障害者福祉協議会
5	〃	県南	高 野 重 彦	龍ヶ崎市身体障害者福祉協会
6	〃	県西	中 村 久 夫	境町身体障害者福祉協議会
7	理 事	県央	立 村 忠	小美玉市身体障がい者福祉協会
8	〃	県北	岸 三 男	東海村身体障害者福祉協議会
9	〃	鹿行	米 川 正 典	鉾田市身体障害者福祉協議会
10	〃	県南	今 泉 武	牛久市身体障害者福祉協議会
11	〃	県南	齊 藤 茂 雄	取手市身体障害者福祉協議会
12	〃	県西	尾 上 孝 俊	常総市身体障がい者福祉協議会
13	〃	県西	服 部 佳 子	下妻市身体障害者福祉協会
14	〃	青年 部会	村 上 克 行	龍ヶ崎市身体障害者福祉協会
15	監 事	鹿行	原 田 保 男	行方市身体障害者福祉協議会
16	〃	県南	大 野 幸 一	美浦村身体障害者福祉協議会

理事：定数15名，現員14名 監事2名

(ブロック・行政順)

茨城県身体障害者福祉協議会 会員団体・会長一覧

平成30年11月現在

1	古河市身体障害者（児）福祉団体連合会	会長 赤坂昇一
2	石岡市身体障害者福祉協議会	会長 平澤利光
3	結城市身体障害者福祉団体連合会	会長 落合祥司
4	龍ヶ崎市身体障害者福祉協会	会長 高野重彦
5	下妻市身体障害者福祉協会	会長 稲葉富士夫
6	常総市身体障がい者福祉協議会	会長 尾上孝俊
7	常陸太田市身体障害者福祉会	会長 高木昇
8	高萩市身体障害者福祉協議会	会長 萩庭勇
9	笠間市身体障害者福祉協会	会長 井川正二
10	取手市身体障害者福祉協議会	会長 齊藤茂雄
11	牛久市身体障害者福祉協議会	会長 伊藤東樹
12	鹿嶋市身体障害者福祉協議会	会長 石津初美
13	潮来市身体障害者福祉協議会	会長 松崎昌樹
14	那珂市身体障害者の会	会長 軍司有通
15	筑西市しもだて肢体障害者福祉協会	会長 渡辺恒男
16	坂東市身体障害者福祉協議会	会長 富山忠保
17	稲敷市身体障害者福祉協議会	会長 佐藤実
18	かすみがうら市障害者福祉会	会長 今戸英一
19	茨城町身体障害者福祉協議会	会長 荻津和良
20	大洗町身体障害者団体連絡協議会	会長 岩井正男
21	城里町身体障害者福祉協会	会長 武井律子
22	桜川市身体障害者福祉協会	会長 斉藤文男
23	東海村身体障害者福祉協議会	会長 岸三男
24	大子町身体障害者福祉協議会	会長 藤田賢司
25	神栖市身体障害者福祉協議会	会長 山間松代
26	行方市身体障害者福祉協議会	会長 原田保男
27	美浦村身体障害者福祉協議会	会長 大野幸一
28	阿見町障害者福祉協議会	会長 小林和男
29	河内町身体障害者福祉協議会	会長 大槻幸榮
30	つくばみらい市身体障害者福祉協議会	会長 荒井栄司
31	八千代町身体障害者福祉協会	会長 馬場源一
32	五霞町身体障害者福祉協議会	会長 小澤清規
33	境町身体障害者福祉協議会	会長 中村久夫
34	鉾田市身体障害者福祉協議会	会長 米川正典
35	小美玉市身体障がい者福祉協会	会長 立村忠

市 町 村 団 体 事 務 局 一 覧

NO	市町村名	団 体 名	事 務 局					会 長 名
			〒	団体名等	住 所	電話番号	F A X	
1	古河市	古河市身体障害者(児)福祉団体連合会	306-0044	古河市社会福祉協議会	古河市新久田271-1 福祉の森会館内	0280-48-0808	0280-48-0119	あかさか しょういち 赤坂 昇一
2	石岡市	石岡市身体障害者福祉協議会	315-8640	石岡市役所社会福祉課	石岡市石岡1丁目1-1	0299-23-1111	0299-27-5835	ひらさわ としみつ 平澤 利光
3	結城市	結城市身体障害者福祉団体連合会	307-0001	結城市社会福祉協議会	結城市結城7473 市役所前分庁舎 3F	0296-33-0225	0296-33-1037	おちあい しょうじ 落合 祥司
4	龍ヶ崎市	龍ヶ崎市身体障害者福祉協会	301-8611	龍ヶ崎市役所社会福祉課内	龍ヶ崎市 3710	0297-64-1111	0297-64-7008	たかの しげひこ 高野 重彦
5	下妻市	下妻市身体障害者福祉協会	304-8501	下妻市役所福祉課	下妻市本城町2-22	0296-43-8352	0296-43-6750	いなば ふじお 稲葉富士夫
6	常総市	常総市身体障害者福祉協議会	300-2505	常総市中心身障害者福祉センター	常総市中妻町2643 - 1	0297-22-9400	0297-22-9411	おのえ たかとし 尾上 孝俊
7	常陸太田市	常陸太田市身体障害者福祉会	313-0041	常陸太田市社会福祉協議会	常陸太田市稲木町 33 番地	0294-73-1717	0294-72-5449	たかぎ のぼる 高木 昇
8	高萩市	高萩市身体障害者福祉協議会	318-0031	—	—	—	—	はぎにわ いさむ 萩庭 勇
			318-0031	副会長宅	高萩市春日町2-66	0293-22-4207	0293-24-1371	ひるた ひろのぶ 蛭田 洋伸
9	笠間市	笠間市身体障害者福祉協会	309-1792	笠間市役所社会福祉課	笠間市中央3-2-1	0296-77-1101	0296-77-1162	いがわ まさじ 井川 正二
10	取手市	取手市身体障害者福祉協議会	302-0001	会 長 宅	—	—	—	さいとう しげお 齊藤 茂雄
11	牛久市	牛久市身体障害者福祉協議会	300-1204	会 長 宅	—	—	—	いとう はるき 伊藤 東樹
12	鹿嶋市	鹿嶋市身体障害者福祉協議会	314-0012	鹿嶋市社会福祉協議会	鹿嶋市平井1350-45 総合福祉センター内	0299-82-2621	0299-83-0242	いっつ はつみ 石津 初美
13	潮来市	潮来市身体障害者福祉協議会	311-2421	潮来市社会福祉協議会	潮来市辻 765 潮来保健センター内	0299-63-1296	0299-63-1265	まつざき しょうじゆ 松崎 昌樹
14	那珂市	那珂市身体障害者の会	319-2102	那珂市社会福祉協議会	那珂市瓜連321 瓜連支所分庁舎	029-229-0309	029-296-1002	ぐんじ ありみち 軍司 有通
15	筑西市	筑西市しもだて肢体障害者福祉協会		会 長 宅	—	—	—	わたなべ つねお 渡辺 恒男
16	坂東市	坂東市身体障害者福祉協議会	306-0632	坂東市社会福祉協議会	坂東市辺田 48	0297-35-4811	0297-36-2355	とみやま ただやす 富山 忠保
17	稲敷市	稲敷市身体障害者福祉協議会	300-0595	稲敷市役所社会福祉課	稲敷市犬塚1570-1	029-892-2000	029-893-1545	さとう みのもる 佐藤 実
18	かすみがうら市	かすみがうら市障害者福祉会	315-8512	かすみがうら市役所社会福祉課	かすみがうら市上土田 461 千代田庁舎内	0299-59-2111	0299-59-2186	いまと えいいち 今戸 英一

NO	市町村名	団 体 名	事 務 局					会 長 名
			〒	団体名等	住 所	電話番号	F A X	
19	茨城町	茨城町身体障害者福祉協議会	311-3131	茨城町社会福祉協議会	茨城町小堤1037-1 ゆうゆう館内	029-292-7141	029-292-3232	おぎつ かずよし 荻津 和良
20	大洗町	大洗町身体障害者団体連絡協議会	311-1305	大洗町社会福祉協議会	大洗町港中央26-1 ゆつくら健康館内	029-266-3021	029-266-2739	いらい まさお 岩井 正男
21	城里町	城里町身体障害者福祉協会	311-4303	城里町社会福祉協議会	東茨城郡城里町石塚 1428-1	029-288-7013	029-288-7021	たけい りつこ 武井 律子
22	桜川市	桜川市身体障害者福祉協会	309-1223	桜川市社会福祉協議会	桜川市鉄田 612 桜川市岩瀬福祉センター内	0296-76-1357	0296-76-2961	さいとう ふみお 斎藤 文男
23	東海村	東海村身体障害者福祉協議会	319-1112	東海村社会福祉協議会	東海村村松2005 総合福祉センター「絆」内	029-282-2804	029-283-4535	きし みつお 岸 三男
24	大子町	大子町身体障害者福祉協議会	319-3526	大子町社会福祉協議会	久慈郡大子町大子 722-1 文化福祉会館内	0295-72-2005	0295-72-1121	ふじた けんじ 藤田 賢司
25	神栖市	神栖市身体障害者福祉協議会	314-0121	神栖市社会福祉協議会	神栖市溝口1746-1 神栖市保健・福祉会館内	0299-93-0294	0299-92-8750	やまま まつよ 山間 松代
26	行方市	行方市身体障害者福祉協議会	311-3512	行方市社会福祉協議会	行方市玉造甲403 玉造福祉センター内	0299-36-2020	0299-55-4545	はらだ やすお 原田 保男
27	美浦村	美浦村身体障害者福祉協議会	300-0492	美浦村役場福祉介護課	稲敷郡美浦村受領 1515	029-885-0340	029-885-5933	おおの こういち 大野 幸一
28	阿見町	阿見町障害者福祉協議会	300-0392	阿見町役場社会福祉課	稲敷郡阿見町中央1丁目1番1号	029-888-1111	029-887-9560	こばやし かずお 小林 和男
29	河内町	河内町身体障害者福祉協議会	300-1331	河内町社会福祉協議会	稲敷郡河内町生板 9593	0297-84-2830	0297-84-4060	おおつき ゆきえ 大槻 幸榮
30	つくばみらい市	つくばみらい市身体障害者福祉協議会	300-2395	つくばみらい市役所社会福祉課	つくばみらい市福田 195	0297-58-2111	0297-58-5811	あらい えいじ 荒井 栄司
31	八千代町	八千代町身体障害者福祉協会	300-3572	八千代町社会福祉協議会	結城郡八千代町菅谷 1033	0296-49-3949	0296-49-3866	ばば げんいち 馬場 源一
32	五霞町	五霞町身体障害者福祉協議会	306-0392	五霞町役場健康福祉課社会福祉 G	猿島郡五霞町小福田 1162-1	0280-84-0006	0280-84-0149	こざわ きよのり 小澤 清規
33	境 町	境町身体障害者福祉協議会	306-0495	境町役場社会福祉課	猿島郡境町391-1	0280-81-1305	0280-86-6020	なかむら ひさお 中村 久夫
34	鉾田市	鉾田市身体障害者福祉協議会	311-1528	鉾田市社会福祉協議会	鉾田市当間 228	0291-32-5831	0291-32-5832	よねかわ まさのり 米川 正典
35	小美玉市	小美玉市身体障害者福祉協会	311-3495	小美玉市役所社会福祉課	小美玉市上玉里 1122 玉里総合支所	0299-48-1111	0299-58-4846	たちむら ただし 立村 忠

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会役員名簿

(平成元年以降の役員)

平成 30 年 11 月現在

期間	会 長	副会長	理 事			監 事	備 考
H元. 5.12 ～ H3 5.16	大脇 一夫	椎名 修 平久保高安 野本 善巳 田口 正男 皆藤 庄三	黒羽根賢治 原 彰義 稲葉富士夫 相沢仁太郎	菊地 重吉 吉田 勘治 町田 進 加藤 次之	小倉 博 阿須間利政 野口 欣邑 広野 耕一	長谷川宗三 神永 忠	
H3. 5.16 ～ H5 5.24	大脇 一夫	椎名 修 平久保高安 野本 善巳 皆藤 庄三 黒羽根賢治	稲葉富士夫 原 彰義 菊地 重吉 町田 進	吉田 勘治 小倉 博 鈴木 国次 池島新之助	中山 康雄 谷島 房芳 野口 欣邑 川崎政太郎	長谷川宗三 神永 忠	
H5. 5.24 ～ H7 5.30	野本 善巳	椎名 修 皆藤 庄三 原 彰義 黒羽根賢治 平久保高安	稲葉富士夫 大野 光一 三村 一雄 高木 昇 菅野 武	吉田 勘治 小倉 博 鈴木 国次 中根 慶二	中山 康雄 谷島 房芳 村山 正弥 亀谷 正	長谷川宗三 神永 忠	
H7. 5.30 ～ H9 5.30	野本 善巳	小沢 一郎 皆藤 庄三 原 彰義 黒羽根賢治 吉田 勘治	稲葉富士夫 三村 一雄 高木 昇 菅野 武	小倉 博 鈴木 国次 吉田 喜代 今泉 武	中山 康雄 谷島 房芳 小沼 驍 亀谷 正	川島 隆一 佐々木武雄	H 8 11.22 30周年 記念式典
H9. 5.30 ～ H11 5.24	野本 善巳	高木 昇 皆藤 庄三 吉田 勘治 中山 康雄	小貫 一郎 原 彰義 木村 昌二 鈴木 国次 石崎 和夫 三村 一雄	清水 晴美 今泉 武 中谷 哲郎 新田 進 森田 幹夫 天貝きよ子	安藤 成 木村 博美 北村 精一 稲葉富士夫 菅野 武	川島 隆一 中村 政通	
H11 5.24 ～ H13 5.21	皆藤 庄三	高木 昇 中山 康雄 吉田 勘治 野本 善巳	小幡 道男 原 彰義 鈴木 国次 石崎 和夫 三村 一雄	菅野 武 清水 晴美 今泉 武 中谷 哲郎 新田 進	森田 幹夫 天貝きよ子 稲葉富士夫 北村 精一 吉原 応助	川島 隆一 吉成 和男	

期間	会 長	副会長	理 事			監 事	備 考
H13 5.21 ～ H15 3.31	中山康雄	林 洋三 高木 昇 吉田 勘治 野本 善巳	海野 信 小幡 道男 原 忠義 蛭田 洋伸 石崎 和夫 北村 精一	三村 一雄 米川 四郎 管野 武 清水 晴美 宮本 澄旦 吉原 応助	谷中 哲郎 新田 進 森田 幹夫 天貝きよ子 稲葉富士夫	川島 隆一 吉成 和男	(小幡氏 H13.9 死亡)
H15 4.1 ～ H16 3.31	中山康雄	高木 昇 野本 善巳 吉田 勘治 原 彰義	皆藤 庄三 海野 信 田崎 光義 蛭田 洋伸 石崎 和夫 石塚 貞夫	管野 武 高橋 等 清水 美 宮本 澄旦 新田 進	天貝きよ子 稲葉富士夫 北村 精一 今泉 武 三村 一雄	吉成 和男 森田 幹夫	(原氏 H15.5 死亡)
H16 4.1 ～ H18 5.23	中山康雄	荻津 和良 高木 昇 吉田 勘治 稲葉富士夫	皆藤 庄三 木村 昌二 蛭田 洋伸 石崎 和夫 三村 一雄	飯島 幸男 高橋 等 清水 晴美 高野 重彦 今泉 武	新田 進 天貝きよ子 北村 精一 野本 善巳 村上 克行	吉成 和男 森田 幹夫	
H18 5.23 ～ H20 5.19	中山康雄	荻津 和良 高木 昇 吉田 勘治 稲葉富士夫	清水 晴美 蛭田 洋伸 石崎 和夫 管野 武	新田 進 青木 哲雄 北村 精一 兵頭 健児	今泉 武 (9)	三村 一雄 高野 重彦	
H20 5.19 ～ H22 5.17	荻津和良	清水 晴美 高木 昇 高野 重彦 稲葉富士夫	倉橋 要義 蛭田 洋伸 岸 三男 管野 武	後藤 芳夫 今泉 武 新田 進 尾上 孝俊	関根 莊 村上 克行 (10)	大部喜三郎 松崎 昌樹	
H22 5.17 ～ H24 5.22	荻津和良	高木 昇 清水 晴美 高野 重彦 稲葉富士夫	倉橋 要義 蛭田 洋伸 岸 三男 管野 武	後藤 芳夫 今泉 武 齊藤 茂雄 尾上 孝俊	渡辺 恒男 村上 克行 (10)	松崎 昌樹 萱嶋 拓雄	

期間	会 長	副会長	理 事			監 事	備 考
H24 5.22 ～ H26 5.29	荻津和良	高木 昇 清水 晴美 高野 重彦 稲葉富士夫	倉橋 要義 蛭田 洋伸 岸 三男 管野 武	後藤 芳夫 今泉 武 齊藤 茂雄 尾上 孝俊	渡辺 恒男 村上 克行 (10)	松崎 昌樹 萱嶋 拓雄	
H26 5.29 ～ H28 5.25	高木 昇	蛭田 洋伸 清水 晴美 高野 重彦 稲葉富士夫 (28.3.31辞任)	荻津 和良 倉橋 要義 岸 三男 後藤 芳夫	米川 正典 今泉 武 齊藤 茂雄 尾上 孝俊	中村 久夫 村上 克行 (10)	松崎 昌樹 萱嶋 拓雄	
H28 5.25 ～ H30 5.24	高木 昇	蛭田 洋伸 清水 晴美 松崎 昌樹 高野 重彦 中村 久夫	荻津 和良 倉橋 要義 岸 三男 米川 正典	今泉 武 齊藤 茂雄 尾上 孝俊 服部 佳子	村上 克行 (10)	原田 保男 萱嶋 拓雄 立村 忠 (H29.5.25就任)	萱嶋氏 (H28.10. 死亡)
H30 5.24 ～	高木 昇	蛭田 洋伸 荻津 和良 松崎 昌樹 高野 重彦 中村 久夫	立村 忠 岸 三男 米川 正典 今泉 武	齊藤 茂雄 尾上 孝俊 服部 佳子	村上 克行 (9)	原田 保男 大野 幸一	

理事定数：15名以上，現員 14名

注) 社団法人：平成15年4月1日～ ，一般社団法人：平成25年4月1日～

第 2 章

茨城県身体障害者福祉協議会の
収支計算書及び主要事業の推移

平成29年度 収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,000	611	△ 389
受取利息	1,000	611	△ 389
受取会費	813,000	763,000	△ 50,000
正会員受取会費	743,000	708,000	△ 35,000
賛助会員受取	70,000	55,000	△ 15,000
事業収益			0
受取補助金等	12,755,000	12,719,146	△ 35,854
県補助金	11,628,000	11,627,146	△ 854
その他補助金	1,127,000	1,092,000	△ 35,000
受取委託費等	3,009,000	3,008,205	△ 795
受取負担金	2,260,000	1,951,500	△ 308,500
受取配分金	100,000	90,000	△ 10,000
受取寄付金	210,000	265,000	55,000
雑収益	40,000	41,435	1,435
経常収益計	19,188,000	18,838,897	△ 349,103
(2) 経常費用			0
事業費	17,219,000	16,764,224	△ 454,776
給与手当等	10,784,000	10,870,710	86,710
福利厚生費	34,000	49,762	15,762
報償費	554,000	608,183	54,183
旅費交通費	555,000	478,743	△ 76,257
消耗品費	717,000	1,190,526	473,526
印刷製本費	457,000	320,890	△ 136,110
食糧費	582,000	630,835	48,835
燃料費	24,000	0	△ 24,000
通信運搬費	262,000	200,219	△ 61,781
手数料	103,000	18,741	△ 84,259
保険料	65,000	41,806	△ 23,194
使用料・賃借料	450,000	438,301	△ 11,699
減価償却費	19,000	18,337	△ 663
負担金	2,366,000	1,650,171	△ 715,829
補助金	247,000	247,000	0
管理費	2,943,000	3,040,555	97,555
給与手当等	2,007,000	2,023,137	16,137
福利厚生費	4,000	5,854	1,854
旅費交通費	130,000	180,264	50,264
消耗品費	70,000	178,760	108,760
印刷製本費	89,000	113,598	24,598
会議費	130,000	44,676	△ 85,324
通信運搬費	130,000	207,971	77,971
手数料	50,000	44,172	△ 5,828
使用料・賃借料	180,000	57,227	△ 122,773
備品購入費	0	0	0
減価償却費	3,000	2,896	△ 104
負担金	120,000	112,000	△ 8,000
雑費	30,000	70,000	40,000
経常費用計	20,162,000	19,804,779	△ 357,221
当期経常増減額	△ 974,000	△ 965,882	8,118
当期一般正味財産増減額	△ 974,000	△ 965,882	8,118

正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
受取利息	611	2,522	△ 1,911
受取会費			
正会員受取会費	708,000	763,000	△ 55,000
賛助会員受取会費	55,000	65,000	△ 10,000
事業収益			
受取補助金等			
県補助金	11,627,146	11,562,000	65,146
その他補助金	1,092,000	937,000	155,000
受取委託費等	3,008,205	3,043,711	△ 35,506
受取負担金	1,951,500	2,105,700	△ 154,200
受取配分金	90,000	100,000	△ 10,000
受取寄付金	265,000	160,000	105,000
雑収益	41,435	40,520	915
経常収益計	18,838,897	18,779,453	59,444
(2) 経常費用			
事業費			
給与手当等	10,870,710	10,851,585	19,125
福利厚生費	49,762	49,853	△ 91
報償費	608,183	405,800	202,383
旅費交通費	478,743	401,019	77,724
消耗品費	1,190,526	600,892	589,634
印刷製本費	320,890	294,525	26,365
食糧費	630,835	697,681	△ 66,846
燃料費	0		
通信運搬費	200,219	199,260	959
手数料	18,741	7,992	10,749
保険料	41,806	54,894	△ 13,088
使用料・賃借料	438,301	524,735	△ 86,434
減価償却費	18,337	18,337	0
負担金	1,650,171	1,960,700	△ 310,529
補助金	247,000	247,000	0
事業費計	16,764,224	16,314,273	449,951

(単位：円)

	当年度	前年度	増 減
管 理 費			
給与手当等	2,023,137	1,860,735	162,402
福利厚生費	5,854	5,865	△ 11
旅費交通費	180,264	355,336	△ 175,072
消耗品費	178,760	160,158	18,602
印刷製本費	113,598	145,387	△ 31,789
会 議 費	44,676	56,136	△ 11,460
通信運搬費	207,971	240,894	△ 32,923
手数料	44,172	59,228	△ 15,056
使用料・賃借料	57,227	92,600	△ 35,373
備品購入費	0	0	0
減価償却費	2,896	2,896	0
負担金	112,000	122,000	△ 10,000
雑 費	70,000	90,000	△ 20,000
管 理 費 計	3,040,555	3,191,235	△ 150,680
経 常 費 用 計	19,804,779	19,505,508	299,271
当期経常増減額	△ 965,882	△ 726,055	△ 239,827
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計			0
(2) 経常外費用			
返還金等		0	0
経常外費用計		0	0
当期正味一般財産増減額	△ 965,882	△ 726,055	△ 239,827
一般正味財産期首残高	9,016,588	9,742,643	△ 726,055
一般正味財産期末残高	8,050,706	9,016,588	△ 965,882
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	8,050,706	9,016,588	△ 965,882

主要事業の推進状況

(1) 山の集い（県委託事業）

昭和49年度までは「身体障害者義肢装着訓練」（県委託事業）として訓練を実施した。平成50年（1975年）からは「山の集い」（県委託事業）と改称した。

年度別開催状況

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
1回	昭50年11月20日～22日	笠間市 吾国山登山道	46名
2	昭51年6月18日～19日	大子町 八溝山登山道	80
3	昭52年6月24日～25日	北茨城市 茜平青少年の家	94
4	昭53年11月2日～3日	真壁町 裏筑波登山道	97
5	昭54年12月8日～9日	高萩市 花貫溪谷	101
6	昭55年11月15日～16日	つくば市 筑波山	124
7	昭56年10月31日～11月1日	大子町（記念植樹）	132
8	昭57年11月20日～21日	真壁町 裏筑波登山道	123
9	昭58年11月11日～12日	真壁町 裏筑波登山道	166
10	昭59年11月8日～9日	真壁町 裏筑波登山道	177
11	昭60年11月15日～16日	真壁町 裏筑波登山道	189
12	昭61年11月7日～8日	真壁町 裏筑波登山道	280
13	昭62年11月6日～7日	真壁町 裏筑波登山道	250
14	昭63年11月18日～19日	真壁町 裏筑波登山道	275
15	平元年11月17日～18日	真壁町 裏筑波登山道	262
16	平2年11月8日～9日	真壁町 裏筑波登山道	325
17	平3年11月8日～9日	真壁町 裏筑波登山道	267
18	平4年11月8日～9日	真壁町 裏筑波登山道	247
19	平5年11月11日～12日	真壁町 裏筑波登山道	240
20	平6年11月7日（日帰り）	真壁町 裏筑波登山道	167
21	平7年11月7日～8日	真壁町 裏筑波登山道	168
22	平8年11月6日～7日	岩間町 愛宕山道	158
23	平9年11月25日～26日	岩間町 愛宕山道	164
24	平10年9月29日～30日	大子町 奥久慈憩いの森	210
25	平11年10月6日～7日	那珂郡美和村 鷲子山	206
26	平12年10月4日～5日	久慈郡里美村 里美カントリー牧場	193
27	平13年10月3日～4日	高萩市 花貫ふるさと自然公園	203
28	平14年10月8日～9日	北茨城市花園 マウントあかね	224

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
29	平15年10月8日～9日	つくば市 筑波山	190名
30	平16年10月5日～6日	つくば市 筑波山	168
31	平17年10月13日～14日	つくば市 ホテル内	154
32	平18年10月5日～6日	北茨城市花園 マウントあかね	202
33	平19年9月27日～28日	桜川市 「つくし湖」	188
34	平20年9月29日～30日	高萩市 小山ダム	244
35	平21年9月17日～18日	行方市 白浜少年自然の家	265
36	平22年9月16日～17日	石岡市 八郷総合運動公園体育館	280
37	平23年10月6日～7日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	250
38	平24年10月4日～5日	下妻市 砂沼広域公園	313
39	平25年10月3日～4日	大子町 大子広域公園	264
40	平26年9月25日～26日	神栖市 神之池公園	252
41	平27年11月5日～6日	つくば市 洞峰公園	242
42	平28年10月27日～28日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	280
43	平29年10月26日～27日	下妻市 砂沼広域公園	220
44	平30年10月25日～26日	大子町 大子広域公園	211

(2) 銀輪の集い（県委託事業）

車いす利用者の方が一堂に会して、機能回復訓練を実施した。

年度別開催状況

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
1回	昭54年3月31日	水戸市 桜川～那珂川コース	25名
	昭54年11月18日	つくば市 筑波山登山道(雨天のため中止)	30
2	昭55年4月20日	つくば市 筑波山登山道	84
3	昭56年10月31日～11月1日	大子町 (記念植樹)	20
4	昭57年11月7日	笠間市 吾国山	57
5	昭58年11月5日	笠間市 吾国山洗心館裏道路	27
6	昭59年11月8日～9日	真壁町 裏筑波登山道	22
7	昭60年11月15日～16日	真壁町 裏筑波登山道	14
8	昭61年11月7日～8日	真壁町 裏筑波登山道	13
9	昭62年11月6日～7日	真壁町 裏筑波登山道	23

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
10	昭63年11月18日～19日	真壁町 裏筑波登山道	27名
11	平元年11月17日～18日	真壁町 裏筑波登山道	※262
12	平2年11月8日～9日	真壁町 裏筑波登山道	※325
13	平3年11月8日～9日	真壁町 裏筑波登山道	※267
14	平4年11月12日～13日	真壁町 裏筑波登山道	※247
15	平5年11月11日～12日	真壁町 真壁バイパス	※247
16	平6年10月16日	水戸市 千波湖グリーンフェア跡	58
17	平7年10月15日	水戸市 偕楽園公園	63
18	平8年10月19日	水戸市 偕楽園公園	61
19	平9年10月25日	水戸市 偕楽園公園	50
20	平10年10月24日	県立リハビリテーションセンター体育館	49
21	平11年10月23日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	47
22	平12年10月21日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	49
23	平13年10月20日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	50
24	平14年10月26日	県立リハビリテーションセンター体育館	38
25	平15年10月22日	かすみがうら市 霞ヶ浦勤労体育センター体育館	53
26	平16年10月18日	かすみがうら市 霞ヶ浦町あじさい館	50
27	平17年9月30日	かすみがうら市 霞ヶ浦町あじさい館	44
28	平18年10月5日～6日	北茨城市花園 マウントあかね	(山と合同)
29	平19年9月27日～28日	桜川市 「つくし湖」	〃
30	平20年9月29日～30日	高萩市 小山ダム	〃
31	平21年9月17日～18日	行方市 白浜少年自然の家	〃
32	平22年9月16日～17日	石岡市 八郷総合運動公園体育館	〃
33	平23年10月6日～7日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	〃
34	平24年10月4日～5日	下妻市 砂沼広域公園	〃
35	平25年10月3日～4日	大子町 大子広域公園	〃
36	平26年9月25日～26日	神栖市 神之池公園	〃
37	平27年11月5日～6日	つくば市 洞峰公園	〃
38	平28年10月27日～28日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	〃
39	平29年10月26日～27日	下妻市 砂沼広域公園	〃
40	平30年10月25日～26日	大子町 大子広域公園	〃

※「山の集い」と合同で実施した際の全参加者数。

(3) 青年部会「ゆうあいの集い」「ボウリング大会」等

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
1	平10年6月6日 ～7日	「集い」神栖町アトンプレスホテル 「ボウリング」神栖トーホーボウル	58名
2	平11年6月12日 ～13日	「集い」土浦京成ホテル 「ボウリング」土浦京成ボウル	56
3	平12年7月1日 ～2日	「集い」大洗シーサイドホテル 「ボウリング」水戸グリーンボウル	39
4	平13年11月17日 ～18日	「集い」下妻市ビアスパークしもつま 「ボウリング」下館ミナミボウル	57
5	平14年11月16日 ～17日	「集い」大洗町オーシャンビュー大洗 アクアワールド茨城県大洗水族館の見学	34
6	平15年9月6日 ～7日	日曜交流会・友愛の集い 群馬県富弘美術館 宿泊：国民宿舎サンレイク草木	15
7	平16年2月1日	日曜交流会・友愛の集い 東京都庁及び NHK放送センターの見学	18
8	平16年7月4日 ～7日	日曜交流会・友愛の集い 吉田正音楽記念館 及び日立シビックセンター天球劇場見学	24
9	平16年2月1日	日曜交流会・友愛の集い 東京都庁及び NHK放送センターの見学	18
10	平17年6月26日	日曜交流会・友愛の集い 青年部会主催の「カラオケ大会」応援及び「しもだて美術館」見学	17
11	平17年9月4日	日曜交流会・友愛の集い つくばエクスプレス 体験とエキスポセンター見学	16
12	平18年7月30日	日曜交流会・友愛の集い 青年部会主催の 「カラオケ大会」応援及び「県陶芸美術館」見学	17
13	平20年2月9日 ～10日	日曜交流会・友愛の集い 青年部実施「ゆうあいの集い」と合同で実施	35

(4) 若人の集い（県委託事業）・友愛の集い（県委託事業）

第1回～第7回までは「若人の集い」（県委託事業）として、第8回は「ゆうあいの集い」（県委託事業）として青年部会が運営主体となり実施。第9回以降は、結婚相談事業である「友愛の集い」と「若人の集い」を健全者と障害者の相互の交流を深め地域社会における友愛の輪を広げることを目的に実施

年度別開催状況

実施回	年度	実施場所	実施内容	参加者数
1	12	筑西市 県西生涯学習センター	体験発表（酒爪氏，北島氏，本橋氏） 講演（ボランティア連絡会須藤氏）	142名
2	13	龍ヶ崎市 文化会館	体験発表（永瀬氏，伊藤氏，菅生氏） 講演（流通経大天野氏）	175
3	14	神栖町 西部コミュニティセンター	体験発表（熊田氏，石川氏） ビデオ上映	138
4	15	美野里町 四季文化会館	体験発表（西野氏，中山氏） 講演（県立リハ小松崎氏）	165
5	16	水戸市 県総合福祉会館	体験発表（石川氏，加藤氏） 講演（県中央病院阿久津氏）	200
6	17	水戸市 県総合福祉会館	体験発表（菅生氏） 講演（山辺医師）	167
7	18	水戸市 県総合福祉会館	体験発表（齊藤氏） 講義（青年部会兵頭氏）	121
8	19	千葉県野田市 クリアビューゴルフクラブ	ゲーム等を通じた交流会， 懇親会（宿泊）	35
9	20	石岡市 ふれあいの里 石岡外	ボウリング大会， 講演（つくば市荃崎木村氏） ゲーム	51
10	21	東京お台場，横浜中華街，みなとみらい	フジテレビ見学，中華街で交流会， みなとみらい散策	42
11	22	笠間市 県立リハビリテーションセンター	車いすバスケット選手との交流 車いすバスケットチームの体験発表	56
12	23	龍ヶ崎市 ハローズガーデン	ボウリング大会（杉田氏） 体験発表（奥村氏，星氏）	54
13	24	牛久市 シャトーカミヤ	バーベキュー，ボランティアによる 「ガマの口上」	87

実施回	年度	実施場所	実施内容	参加者数
14	25	龍ヶ崎市 ハローズガーデン	ボウリング大会（杉田氏）	76名
15	26 11/9	土浦市 ラスクマリーナ	遊覧船での霞ヶ浦のクルーズ 講演（ラスクマリーナ秋元昭臣氏）	34
16	27 11/1	龍ヶ崎市 ハローズガーデン	講演（龍ヶ崎社協 寺崎 真氏） ボウリング大会	53
17	28 11/12	龍ヶ崎市 ハローズガーデン	ボウリング大会（遠藤千枝氏）	73
18	29 12/3	水戸市 県総合福祉会館	ボッチャの練習と試合	70

（5）ゆうあいカラオケ歌謡発表会（青年部会）

健常者の方と共に広く普及しているカラオケに親しみ、ゆうあいの輪を広げることを目的に開催。平成22年度から、審査を廃止した。

年度別開催状況

実施回	年度	実施期日	実施場所	参加者数
1	10	9月20日	筑西市 県西生涯学習センター	120名
2	11	11月14日	ひたちなか市 ニュー白亜紀	38組
3	12	9月 3日	潮来市 潮来公民館	200名
4	13	9月16日	玉里村 総合文化センター	150
5	14	9月22日	つくば市 谷田部圏民センター	120
6	15	9月28日	岩井市 ベルフォーレ	294
7	16	9月12日	美野里町 四季文化会館	118
8	17	6月26日	県西生涯学習センター	105
9	18	7月30日	つくば市 カピオ	110
10	19	6月10日	神栖市 平泉コミュニティーセンター	123
11	20	8月 3日	水戸市 県総合福祉会館	157
12	21	7月 5日	〃	102
13	22	7月11日	〃	175
14	23	2月12日	〃	114

実施回	年度	実施期日	実施場所	参加者数
15	24	12月16日	水戸市 県総合福祉会館	119名
16	25	7月14日	〃	192
17	26	7月13日	〃	159
18	27	7月12日	〃	147
19	28	7月10日	〃	138
20	29	7月9日	〃	137
21	30	7月8日	〃	159

(6) ゆうあい卓球大会 (青年部会)

卓球 (団体戦, 個人戦) を通して理解促進と機能回復を図るために実施している。

年度別開催状況

実施回	年度	実施期日	実施場所	選手	参加者数
1	平13	6月24日	波崎町 総合福祉センター	56名	一名
2	14	6月23日	境町 境シンパシーホール	49	100
3	15	11月22日	龍ヶ崎市 たつこのこアリーナ	68	128
4	16	10月31日	鹿嶋市 カシマススポーツセンター	67	—
5	17	11月20日	〃	67	128
6	18	11月4日	龍ヶ崎市 たつこのこアリーナ	55	112
7	19	10月28日	県立リハビリテーションセンター	53	70
8	20	10月26日	〃	53	74
9	21	10月25日	〃	59	79
10	22	10月17日	〃	60	81
—	23	中止	—	—	—
11	24	10月28日	〃	56	70
12	25	10月13日	〃	46	74
13	26	10月4日	水戸市 県庁福利厚生棟	47	73
14	27	10月4日	龍ヶ崎市 たつこのこアリーナ	42	80
15	28	10月1日	〃	55	111
16	29	10月13日	〃	56	88
17	30	11月20日	〃	63	90

(7) 役員研修会

昭和44年から役員研修を実施してきたが、本稿では平成元年度以降の役員研修について記載します。

平成元年度以降

実施回	実施期日	実施場所	内 容	参加者数
18	元年1月28日 ～29日	栃木県藤岡町 深沢製作所	障害者雇用や作業状況の視察	27名
19	2年1月25日 ～26日	千葉県鴨川市 嶺岡園(精薄)	精薄施設の視察	35
20	3年1月24日 ～25日	群馬県渋川市 恵の園	総合福祉施設の視察	29
21	4年1月23日 ～24日	福島県飯坂町 けやきの村	重度身体障害者援助施設の視察	29
22	5年1月19日 ～20日	宇都宮市 晃陽職業センター	身体障害者通所施設の視察	31
23	6年1月19日 ～20日	大洗町 大洗シーサイドホテル	身障福祉の充実と茨身協 の組織強化	53
24	7年2月8日 ～9日	潮来町 富士屋ホテル	当面の行事と青年部会の立 上げ	65
25	8年2月5日 ～6日	筑波町 ホテル青木屋	青年部会の設立、協議会の 法人化	64
26	9年2月17日 ～18日	ひたちなか市 長寿荘	青年部会設立報告、協議会 の法人化	52
27	10年2月17日 ～18日	笠間市 山の荘	会員団体の組織強化と協議 会の法人化等	75
28	11年1月26日 ～27日	土浦市 霞ヶ浦グランドホテル	介護保険制度、会員団体の 組織強化事例	63
29	12年1月26日 ～27日	旭村 いこいの村潤沼	介護保険制度、会員団体の 財源確保等	79
30	13年1月30日 ～31日	旭村 いこいの村潤沼	茨身協の法人化推進、最近 の障害者施策等	88
—	平成13年度	法人化の推進や募金活動等の実施のためやむを得ず取りやめた。		—

実施回	実施期日	実施場所	内 容	参加者数
3 1	15年1月30日 ～31日	旭村 いこいの村涸沼	障害者福祉，茨身協法人化 の経過報告等	69名
3 2	16年2月3日 ～4日	旭村 いこいの村涸沼	障害者の雇用の現状や就労 支援対策等	70

平成16年度からは銚田市の「いこいの村涸沼」において宿泊により実施し，市町村団体役員の相互理解の促進を図っている。

年度別実施状況

年度	実 施 内 容	参加者
平16	講演 障害福祉課職員 「障害者の支援施策」「障害者ITサポートセンターについて」 就労支援センター長 「雇用情勢，活動状況」 特別講演 岡田参議院議員「21世紀に生きる。」	94名
17	講演 筑波大田中教授「老い方上手で100歳長寿」 障害福祉課職員「障害者自立支援法の概要」，「就労支援のための職業能力開発について」 就労支援センター長 「最近の雇用情勢」	100
18	講演 茨城大長谷川助教授 「障害者とともに生きる。」 障害福祉課長 「本県の障害者福祉施策について」	86
19	講演 茨城大長谷川准教授 「養生の思想と自分らしく生きること。」 保健福祉部長 「県の障害者福祉行政について」	81
20	講演 県立健康プラザ大田医師 「住民参加の介護－予防リハビリ体操」 県立リハビリセンター職員 「リハビリテーションセンターの自立支援，就労支援について」	81
21	講義 県消費生活センター 消費者教育講師 「消費者被害から障害者を守るために」 グループ討議 「市町村団体の組織強化と魅力ある事業の展開」	105
22	講義 茨城県社会福祉協議会職員 「生活福祉資金貸付制度について」 グループ討議 「会員増加対策と団体活動の活性化について」	99
23	講義 和田野安良 県立医療大学附属病院長 「障害者とスポーツについて」 県保健福祉部障害福祉課課長補佐 「障害者福祉行政」	100

年度	実 施 内 容	参加者
24	講義 サイバーダイナミクス(株)営業戦略部長 久野孝稔 「ロボットスーツ HAL 最前線」 県保健福祉部障害福祉課課長補佐 「障害者福祉行政」	97名
25	講義 関東運輸局消費者行政・情報課長 池田 敏之 「バリアフリーの現状と関東の取り組み」 県保健福祉部障害福祉課 係長 「障害者の権利擁護」	75
26	講義 県警察本部刑事部 ニセ電話詐欺対策室 係長 湯坂 元一 「ニセ電話詐欺被害防止対策について」 日本赤十字社茨城県支部 指導員 重藤 みどり, 大和田 信子 「高齢者の健康と安全について—高齢者に起こりやすい事故 の予防と手当を学ぶ」	75
27	講義 流通経済大学教授 根橋 正一「障害者旅行論—歴史と現状—」 茨城県障害福祉課 副参事 松本 敏明 「全国障害者スポーツ 大会 2019 茨城大会に向けての取組み」	73
28	講演 茨城大学工学部 教授 山田 稔 「障害者にやさしい福祉のま ちづくり：～移動のユニバーサルデザインを中心に～」 茨城県障害福祉課 係長 佐藤 誠 「第16回全国障害者スポーツ大会いわて大会に参加して」	78
29	講演 茨城県薬剤師会 薬剤師 石崎 正男 「薬の正しい飲み方・使 い方：薬の効用，副作用並びに相互作用について」 茨城県障害福祉課 係長 大川 祐美子 「第17回全国障害者スポーツ大会えひめ大会に参加して」	83

(8) ブロック会議の再開

年度	実施期日	地区	開催場所	協議事項等	参加者数
25	8.21	県央	県総合福祉会館	・会員減少に対する会員の確保 ・市町村福祉バスの利用 ・特色ある行事、事業等	22名
26	8.22	県北	県北県民センター	〃	23
27	8.21	鹿行	鉾田市社協会議室	〃	32
28	8.24	県南	牛久市中央生涯学習センター	〃	37
	11.29	県西	下妻市役所	〃	40
30	9.4	県央	県総合福祉会館	・高齢化による会員の減少への対応 ・若手会員の確保 ・特色ある行事、事業等	23

(9) 団体交流支援事業の実施

ブロック内の団体が相互に交流を深めるために、平成27年度に新規事業として始めた。

年度	実施期日	対象地区	旅行行先	参加者数
27	7.5～6	県北、県央	栃木県足利学校、日光田保沢御用邸記念公園等	26名
	10.26	県南地区	栃木県日光田保沢御用邸記念公園等	18
28	6.7	鹿行地区	東京台場、東京湾クルーズ、浅草仲見世	28
	7.7	県西地区	東京台場、東京湾クルーズ、	31
29	7.2～3	県北地区	栃木県湯西川温泉、日光市内	21
30	11.21	県央地区	東京台場フジテレビジョン	23

(10) 結婚相談事業（県委託事業）

平成14年度から、会員がよき配偶者に恵まれ幸せな家庭生活が送れるよう、登録制により出会いの機会の提供と結婚に係る相談を行ってきた。

平成14年度（友愛の集い・日曜交流会の開催）

名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
日曜交流会	14年6月9日	県総合福祉会館：登録を行ったクローバーズメンバーの交流活動の案内等	15名
	11月3日	県総合福祉会館：登録を行ったクローバーズメンバーの結婚観等の意見交換	14
	12月15日	県総合福祉会館：クリスマス会	26
	15年1月25日 ～26日	栃木県障害者保養センター那珂川苑（馬頭町）泊，なかがわ水遊園（湯津上村）	12
友愛の集い	11月16日 ～17日	「集い」大洗町オーシャンビュー大洗アクアワールド茨城県大洗水族館の見学	16
友愛の集い (近県との交流)	9月7日～8日	山梨県高根町八ヶ岳少年自然の家：関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会	15

平成15年度（友愛の集い・日曜交流会の開催）

名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
日曜交流会	15年5月31日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	21名
	10月19日	県総合福祉会館：大好きいばらき県民まつり（県庁）の見学と交流	18
	12月7日	県総合福祉会館：クリスマス会	18
近県との交流	8月30日	東京都飯田橋庁舎：セントラルプラザビル：関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会（全体参加者：30名）	8
	10月11日～12日	山梨県「第30回ジャンボひまわりの集い」に参加。石和町「総合福祉センターかえで荘」	5
友愛の集い	9月6日～7日	宿泊：国民宿舎サンレイク草木 群馬県富弘美術館見学	15
	平16年2月1日	日曜交流会・友愛の集い 東京都庁及びNHK放送センターの見学	18

平成 16 年度（友愛の集い・日曜交流会の開催）

名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
日曜交流会	16年5月30日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	21名
	12月5日	県総合福祉会館：クリスマス会・音楽会	48
	3月13日	県総合福祉会館：交流会，試写会等	29
近県との交流	9月11日～12日	山梨県ゆずりはら青少年自然の家：関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会	7
	10月2日～3日	山梨県「第31回ジャンボひまわりの集い」に参加。石和町「総合福祉センターかえで荘」	4
友愛の集い	7月4日	吉田正音楽記念館及び日立シビックセンター天球劇場見学	24
	9月26日	笠間工芸の丘（笠間焼体験），県陶芸美術館見学と交流	28

平成 17 年度（友愛の集い・日曜交流会の開催）

名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
日曜交流会	17年5月29日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	21名
	12月4日	県総合福祉会館：クリスマス会・音楽会	43
	2月12日	県総合福祉会館：「若人の集い」に参加後，交流会を行った。	31
近県との交流	9月24日～25日	山梨県甲府市「ニュー芙蓉」青少年自然の家：関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会	4
友愛の集い	6月26日	青年部会主催の「カラオケ大会」応援及び「しもて美術館」見学	17
	9月4日	つくばエクスプレス体験とエキスポセンター見学	16

平成 18 年度（友愛の集い・日曜交流会の開催）

名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
日曜交流会	18年6月18日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	21名
	12月4日	県総合福祉会館：クリスマス会・音楽会	26
	2月11日	県総合福祉会館：「若人の集い」に参加後，交流会を行った。	25
近県との交流	9月23日～24日	横浜市民ふれあいの里「上郷・森の家」 他県参加者と交流を行った。	2
友愛の集い	7月30日	青年部会主催「カラオケ大会」（つくばカピオ） 応援及び「県陶芸美術館」見学	12

平成 19 年度（友愛の集い・日曜交流会の開催）

名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
日曜交流会	19年6月24日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	25名
	12月9日	県総合福祉会館：クリスマス会	30
近県との交流	9月8日～9日	埼玉県「埼玉厚生年金休暇センター」 関東甲信越静岡ブロック友愛の集い交流会 (全体117名)	5
友愛の集い	2月9日～10日	千葉県野田市「クリアビューゴルフクラブ& ホテル」で青年部会と合同で交流会を行った。	35

平成 20 年度（友愛の集い・日曜交流会の開催）

名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
日曜交流会	20年6月22日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	23名
	12月9日	県総合福祉会館：クリスマス会	33
近県との交流	9月13日～14日	神奈川県「いこいの村あしがら」関東甲信越 静岡ブロック友愛の集い交流会	10
友愛の集い	2月1日	石岡市「AG・ボウル」，ふれあいの里石岡 「ひまわり館」青年部会と合同でボウリング やゲームを行い，交流を深めた。	51

日曜交流会の開催
平成 21 年度～

年度	名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
21	日曜交流会	21年6月14日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	46名
		12月13日	笠間市「パークスガーデンプレイス」クリスマス会	53
	他県との交流	9月12日～13日	群馬県みなかみ町「源泉湯の宿松の井」関東甲信越静岡ブロック友愛の集い交流会	17
22	日曜交流会	22年6月13日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，個人面談等	45
		12月5日	笠間市「パークスガーデンプレイス」クリスマス会	38
	他県との交流	9月18日～19日	神奈川県川崎市「ホテルKSP」関東甲信越静岡ブロック友愛の集い交流会	9
23	日曜交流会	23年6月5日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，グループ交流，個別面談等	55
	他県との交流	10月1日～2日	千葉市「ホテルポートプラザちば」関東甲信越静岡ブロック友愛の集い交流会	13
24	日曜交流会	24年6月10日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，グループ交流，個別面談等	49
	他県との交流	9月8日	水戸市「レイクビュー水戸」関東甲信越静岡ブロック友愛の集い交流会（全体参加者146名）	61
25	日曜交流会	25年6月9日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，グループ交流，個別面談等	48
		12月1日	水戸市「イル・ロツソ」クリスマス会ゲーム，食事，交流会を楽しむ	42
	他県との交流	9月7日	宇都宮市 青年会館「コンセーレ」関東甲信越静岡ブロック友愛の集い交流会（全体参加者120名）	16

年度	名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
26	日曜交流会	26年6月8日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，グループ交流，ゲーム等	55名
		11月30日	水戸市「イル・ロッソ」クリスマス会 ゲーム，食事，カラオケ，交流等	56
	他県との交流	9月7日	千葉県「カンデオホテルズ千葉」 関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会 (全体参加者95名)	18
27	日曜交流会	27年6月7日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，グループ交流，ゲーム等	55
		11月29日	水戸市「イル・ロッソ」クリスマス会 食事，独唱，作曲披露，交流等	41
	他県との交流	9月12日	山梨県笛吹市石和温泉 関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会 (全体参加者124名)	12
28	日曜交流会	28年6月12日	県総合福祉会館：クローバーズメンバーの交流，ゲーム，ウクレレ演奏等	48
		11月27日	水戸市「ザ・ウェストヒルズホテル」 クリスマス会：食事，交流等	45
	他県との交流	9月11日	横浜市「新横浜国際ホテル」 関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会 (全体参加者94名)	17
29	日曜交流会	29年6月11日	県総合福祉会館：パラリンピック競技 種目「ボッチャ」，交流，ゲーム等	47
		11月26日	水戸市「ザ・ウェストヒルズホテル」 クリスマス会：食事，交流等	47
	他県との交流	9月7日	静岡市「アソシア静岡」 関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会 (全体参加者60名)	30

年度	名 称	実施年月日	実 施 会 場 等	参加者数
30	日曜交流会	30年6月24日	県総合福祉会館：カーリングボッチ、 交流、ゲーム等	36名
		11月25日	水戸市「ザ・ウェストヒルズホテル」 クリスマス会、食事、交流等	48
	他県との交流	11月10日	埼玉県「埼玉会館」 関東甲信越静ブロック友愛の集い交流会 (全体参加者100名)	5

(11) 地区就労支援相談員研修会実績

年度	内 容	参加者数
H19	①県障害福祉課 酒寄係長 「地区就労支援相談員の役割」 ②県職業能力開発課 障害者職業訓練コーディネーター村澤 康江氏 「障害者の就労支援について」	38名
H20	①茨城労働局職業対策課 高齢・障害者雇用対策係長 仲田 氏 「茨城県における障害者雇用の現状と課題」 ②県障害福祉課企画G 中村主事 ③相談員発表 蛭田洋伸 「就労支援事業における県施策」	47
H21	①㈱大滝 執行役員 入江 氏 「障害者雇用の実態と就労促進」 ②県労働政策課 ③相談員発表 松崎昌樹 「県の雇用の現状と県の施策」	59
H22	①㈱沖ワークウェル取締役社長 木村 氏 「通勤できなくても仕事ができる」 ②水戸地区障害者就業・生活支援センター野田所長 「社会で生き生きと生きるために」	47
H23	①茨城障害者職業センター 浅利所長 「茨城障害者職業センター」 ②県障害福祉課 大窪主任 「障害のある方へ～就労支援メニュー」	38
H24	①㈱ユニレックスつくば支店長 腰越俊之 氏 「障害者雇用」 ②茨城労働局職業対策課 地方障害者雇用担当官清水いずみ氏 「障害者の雇用状況、雇用対策」	36
H25	①医療法人真成会統括部長 滝本 黎子 氏 「一人一人に合った仕事の内容を考えて」 ②NPO法人自立支援ネットワークサービス管理責任者 産業カウンセラー 黒岩 直人 氏 「障害者の成長可能性に着目した就労支援の実際と学び」	43
H26	①社会福祉法人自立奉仕会 茨城福祉工場製造課 山崎かおり 技術員 「感謝とともに謙虚に生きる」 ②茨城労働局職業安定部職業対策課 高安祐一 地方障害者雇用担当官 「障害者の雇用状況と雇用対策について」	51
H27	①茨城県職業能力開発課 村澤康江障害者職業訓練コーディネーター 「お互いを理解して、納得して、協働する」 ②茨城労働局職業安定部職業対策課 平川 大 高齢・障害者雇用対策係 「障害者の雇用状況と雇用対策について」	48

年度	内 容	参加者数
H28	①茨城労働局職業安定部職業対策課 永井通容 地方障害者雇用担当官 「障害者の雇用状況と課題について」 ②茨城県保健福祉部障害福祉課企画担当 大川裕美子係長 「茨城県の就労支援について」	41名
H29	①茨城労働局職業安定部職業対策課 永井通容 地方障害者雇用担当官 「障害者に対する差別の禁止及び合理的配慮の提供義務」 ②茨城県保健福祉部障害福祉課企画担当 垣内 武主任 「障害者雇用を応援します」	35
H30	①茨城労働局 雇用環境・均等室 赤木智治労働紛争調整官 「最近の労働相談内容について」 最近のパワハラ等の相談件数, 相談事例 ②茨城障害者職業センター 河合智美主任障害者職業カウンセラー 「障害別にみた特徴と雇用上の配慮」就労の実例, 最近の就労支援機器, ジョブコーチ	33

廃止になった事業

(1) 水の集い（県委託事業）

年度別開催状況

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
1回	昭50年8月22日	県立リハビリテーションセンター室内温水プール	17名
2	昭51年7月17日	〃	20
3	昭52年7月16日	〃	108
4	昭53年8月20日	〃	36
5	昭54年8月25日	〃	71
6	昭55年7月19日	〃	42
7	昭56年7月18日	〃	83
8	昭57年7月31日	〃	86
9	昭58年7月30日	〃	79
10	昭59年7月28日	〃	150
11	昭60年7月27日	〃	95
12	昭61年7月26日	〃	105
13	昭62年7月25日	〃	107
14	昭63年7月25日	〃	76
15	平元年7月29日	〃	87
16	平2年7月28日	〃	100
17	平3年7月27日	〃	110
18	平4年7月24日	〃	98
19	平5年7月23日	〃	106
20	平6年7月22日	〃	102
21	平7年7月28日	〃	84
22	平8年7月26日	〃	71
23	平9年8月26日	〃	108
24	平10年7月24日	〃	122
25	平11年7月23日	〃	116
26	平12年7月28日	〃	116

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
27	平13年7月27日	県立リハビリテーションセンター室内温水プール	89名
28	平14年7月26日	〃	74
29	平15年8月6日	〃	84
30	平16年8月6日	〃	73
31	平17年8月5日	〃	86
32	平18年8月4日	〃	84
33	平19年8月3日	〃	52
34	平20年8月1日	〃	61

※ 参加者数の減少等により中止に至った。

(2) 友愛の旅

旅をして見聞を広め、参加者間の親交を深めることを目的として昭和50年度から旅行会社に委託して実施した。ほぼ、国内の有名観光地を旅したことや、参加者の高齢化や減少などにより、25年度以降は中止することとした。

年度別開催状況

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
1	昭50年11月14日～18日	南九州の旅	213名
2	昭51年5月22日～26日	北海道旅行船と空の旅	400
3	昭52年5月21日～25日	北九州の旅	91
	5月30日～6月3日	〃	181
4	昭53年4月2日～7日	四国一周の旅	79
	4月6日～9日	〃	80
	4月8日～13日	〃	44
5	昭54年4月10日～13日	山陽・山陰の旅	63
	4月11日～14日	〃	42
	4月16日～19日	〃	40
	10月25日～29日	南九州の旅	35
6	昭55年5月21日～27日	南北海道の旅	197
7	昭56年5月18日～21日	北陸路の旅	80
8	昭57年4月7日～11日	沖縄の旅	88
9	昭58年4月9日～12日	南紀の旅	72

実施回	実施年月日	実施会場	参加者数
10	昭59年6月9日～12日	瀬戸内海の旅	81名
11	昭60年6月3日～6日	東北の旅	37
12	昭61年6月4日～7日	南九州の旅	59
13	昭62年6月24日～26日	佐渡の旅	84
14	昭63年5月31日～6月3日	日身連岡山大会と瀬戸大橋博88の旅	121
15	平元年5月16日～19日	東北路（秋田，青森，山形）の旅	64
16	平2年5月23日～25日	日身連宮城大会と東北路の旅	72
17	平3年6月3日～5日	黒部立山アルペンルートの旅	87
18	平4年6月2日～5日	飛騨・高山方面の旅	72
19	平5年6月1日～4日	宮島参拝と瀬戸内海めぐり旅	45
20	平6年6月6日～8日	八丈島，三宅島の旅	83
21	平7年6月7日～9日	霊峰高野山，南紀州路の旅	61
22	平8年6月16日～19日	利尻，礼文島，夫人峡と富良野花めぐり	49
23	平9年6月3日～5日	日身連新潟大会と月岡温泉の旅	37
24	平10年5月27日～29日	日身連奈良大会と神戸，淡路島，京都，奈良の旅	85
25	平11年6月2日～4日	別府，湯布院，阿蘇，長崎ハウステンボスの旅	46
26	平12年6月6日～8日	日身連東京大会と東京ディズニーランドの旅	22
27	平13年6月13日～15日	宮島，岩国，萩，出雲大社の旅	43
28	平14年5月30日～6月1日	日身連徳島大会と倉敷，岡山の旅	20
29	平15年7月1日～3日	北海道，富良野，札幌の旅	33
30	平16年6月20日～22日	ちゅら島沖縄の旅	15
31	平17年6月9日～日	愛知万博見学旅行	25
32	平18年6月11日～13日	北海道の旅	18
33	平19年6月5日～7日	北陸（富山・石川）の旅	19
34	平20年5月7日～9日	沖縄，石垣島の旅	20
35	平21年6月7日～9日	四国（松山・高知）の旅	16
36	平22年6月20日～23日	韓国ソウルの旅	17
—	平23年6月1日～3日	東北（青森，角館）の旅（震災のため）	中止
37	平23年6月7日～9日	東北（盛岡，平泉）の旅	18

第 3 章

思い出と新たな決意



茨身協設立五十周年記念に想う

一般社団法人

茨城県身体障害者福祉協議会

名誉会長 **中山康雄**

(潮来市)

昨年11月9日、設立50周年記念式典において、茨城県知事大井川和彦知事から障害者福祉の向上への貢献により感謝状を賜り、また、受賞者を代表してお礼を申し上げる光栄に預かり、改めて感謝申し上げます。

顧みますと、私は平成13年5月に急遽、本協議会の会長に推挙され、その後、平成20年5月に荻津和良氏（茨城町）に引き継ぐまで、4期7年間、会長職を務めました。当時は、「本協議会の法人化」という、20数年来の懸案事項が暗礁に乗り上げ、当初は、1年限りで会長職を辞任しようと考えておりました。

しかし、「法人化するには1千万円の基金をつくること。」が必要とされていた時代であり、会員の皆さんに如何にして法人化のメリットを理解して頂き、寄付金を募って行くかが最重要課題でした。

法人化にあたり、新たな事業として結婚相談事業を県から受託し、結婚相談員を採用する等、本協議会の事業、行事の充実を図るとともに、正副会長会議や理事会においては、各役員から忌憚のない意見や考えを述べてもらう等、活発な議論、話し合いが行われ、結果、組織としての統一的な方向性が決定されました。

御蔭をもちまして、寄付金も順調に集まり、平成15年4月1日、「社団法人」となり、長年、本協議会の目標でありました法人化を達成し、今年は「法人化十五周年記念」の年でもあります。

寄付金につきましては、会長が組織の長として誰よりも一番多く寄付することは当然としても、各役員、特に当時の各副会長にはそれぞれ、数十万円の寄付をいただくことになってしまったことに一抹の後悔の念があります。

反面、寄付金を募るという事業を推し進めるには、口先だけの旗振り役では誰もついて来ず、身をもって先例を示し、会長はじめ執行部の本気度を会員の皆さんに解ってもらう必要があったのではないかと今でも思っております。

会長在任中の7年間は、役員、会員の皆様に支えられ、任務を終えることができました。特に、出島村村議会議長を2度も務めた輝かしい経歴と行動力の持ち主であり、十数歳年長であった元副会長（会長代行）の故吉田勘治氏（出島村：現かすみがうら市）には、それぞれの局面で支えられました。ここに改めて感謝を申し上げるとともに、氏の御冥福を祈念いたします。



50周年を振り返って

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
相談役 **稲葉 富士夫**
(下妻市)

「光陰矢のごとし」50周年を振り返りしみじみと思い出されます。

ソフトボールを趣味にしていた市議会議員時代、子供たちの交通安全を願い、交差点や車に気を付けながら砂沼周辺の通学路を10年余り一緒に歩きました。県の相談員、下妻市社会福祉協議会の理事等になり、会議には必ず出席し、いろいろな意見や提案などもさせていただきました。このたび、設立50周年を迎えた本協議会でも役員を務めさせていただき、自分でも驚くほどの長い年月お世話になりました。

今でも心に残るのは、「やっと障害者手帳がいただけました。」とか、「おかげさまで職に就けました！」障害者からのそんな声。相談員として活動してきた時期は、とても充実した時間でした。

下妻市身体障害者福祉協会では、会の若返りを図るため比較的若い役員を起用。その後に結成された青年部に関しても、茨身協主催事業等に積極的に参加し好成績を収めたことは私の希望でもありました。私自身も、県の身体障害者スポーツ大会で出場した100メートル走、200メートル走において、もう少しで国体出場に届くタイムを記録したこともあり、夢の様な思い出です。

下妻市の大きな事業として平成5年から平成26年まで行われた、新幹線や飛行機、船を使っての北海道、沖縄等への旅「夢おおぞら」にも実行委員長として関わり、なつかしく思い出されます。

会員の高齢化が進み、会員数も年々減少している昨今、会員増員はこれからの大きな課題となっております。私も健康に留意しながら少しでも会のために頑張りたいと思います。

茨城県身体障害者福祉協議会設立50周年、まことにおめでとうございます。



茨身協設立 50 周年記念誌 発刊に寄せて

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
副会長 **高野重彦**
(龍ヶ崎市)

一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会は設立50周年を迎え、平成29年11月9日(木)午後1時30分から、式典会場の小美玉市四季文化館「みの〜れ」において、県知事代理の保健福祉部長をはじめ多数の来賓の皆さま方を迎えて、障害者の福祉の向上に功績を残された受賞者他、県内各市町村の会員と関係者の大勢のみなさまのご出席を頂き盛大に式典が挙行されました。

顧みますれば、本協議会は、昭和42年5月に任意団体の茨城県肢体障害者福祉協議会として設立されました。

その後、名称を茨城県身体障害者福祉協議会と改称し、平成15年4月に先輩諸氏役員の血のにじむような苦勞と努力により、それまでの任意団体を法人化し「社団法人茨城県身体障害者福祉協議会」を作り上げました。

この法人化は、本協議会が永年にわたり念願していたもので、永遠に記録される大事業として遂にここに集大成されたのです。

その後、公益法人制度改革関連三法が施行となり、平成25年4月1日から「一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会」に組織を改正しました。

本協議会の名称等は変わっても、その使命は少しも変わりません。

すなわち、「身体障害者の自立更生と福祉の増進をはかるとともに、身体障害者に対する県民の理解を深め、もって障害者と健常者が共同してノーマライゼーションの理念に基づいた地域社会を形成することに寄与する。」との目的を実現するために、県及び各市町村並びに社会福祉協議会等多くの関係機関からの援助・協力並びにボランティアの方々のご協力を頂きながら本協議会の事業が進められてきました。

主な事業として、「山の集い・銀輪の集い」をはじめ、茨城県身体障害者スポーツ大会が挙げられ、いずれも県内各地から多くの会員のみなさまの参加を得て毎年実施されております。

私も茨身協の役員として、本協議会の使命が果たせるように微力ではありますが精一杯精進して参る所存であります。

茨身協設立50周年記念誌発刊に寄せて、私の所信を述べさせて頂きました。



茨城県身体障害者福祉協議会 設立 50 周年記念に思う

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
副会長 **松 崎 昌 樹**
(潮 来 市)

はじめに、昨年11月9日に設立50周年記念式典が多くの皆様のご臨席の下で盛大に挙行できましたことは、長きに亘り本協議会に対しまして、ご指導やご厚情を賜りました関係各位の賜物であり衷心より感謝の意を表したいと存じます。

また、本協議会の発展に大いに寄与されて来られました歴代の会長や役員の方々のご苦勞に対しまして改めまして敬意を表する次第であります。

私事で恐縮ではありますが、昭和30年に勤務していた職場で誤って機械に挟まれ、右手の指三本を切断してしまいました。その時のショックの大きさは忘れることが出来ません。

しかしながら、多くの友人知人からの励ましがあがり、自立することが出来ました。

さらに、当時の潮来町身体障害者協議会会長でありました中山康雄様との出会いは恵まれた出会いであったと思っております。

中山会長からのお誘いを頂き入会し、その後、県身体障害者スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会等に参加出来たことは良き思い出となっております。

私は、昭和55年から4期16年潮来町議会議員として、文教厚生委員会等に所属し、福祉行政の向上に尽力して参りました。

現在、国等はバリアフリーの環境整備、障害者の定義の見直し、虐待防止法制定、障害者の権利に関する条例、障害者雇用促進法及び障害者差別解消法の制定など、障害者を取り巻く環境は日に日に変化しておりますが、私たちがこれからも安全な環境の中で安心して穏やかな日々を送れるよう皆様方のご協力の下、微力ではありますが精進してまいりたいと存じます。

終わりに、今後も関係機関や関係各位のご理解・ご協力をお願い申し上げますと共に会員の皆様方のご健勝をご祈念申し上げ結びといたします。



50年のつながり

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
副会長 **中村久夫**
(境町)

昭和42年、茨城県身体障害者福祉協議会が設立されてから、50周年の節目を迎え、平成29年11月に大勢の関係各位のご臨席をいただき、盛大に記念式典を挙行し、平成30年に記念誌を刊行できますことは誠に喜びに堪えません。

設立当初より障害者福祉の推進、茨身協発展のために永くご尽力いただいた先輩諸氏の皆様に心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

この記念事業に実行委員会を編成し、入念な準備会議を重ねてきた実行委員の一人として、そして副会長としての立場で関わらせて頂けたことに、誇りと喜びを感じています。

振り返ってみると、茨身協に境身障協が入会したのが昭和45年、今年で48年目になります。そして私が境身障協の会員として茨身協と各市町村の会員の皆様と共に、数々の活動に参加をして43年目になります。県西地区境町から水戸市の茨身協へは、車で2時間30分はかかり、途方もなく遠く感じたものでした。

この50年の間、障害者を取り巻く環境は大きく変わりました。障害福祉に関する法律や条例の施行により、地域社会の中で障害者の住みやすさは徐々に改善がみられますが、残された課題もまだまだあることも現状です。

そうしたいくつかの課題に向けて、これからは障害者自身が何時もいつも福祉の受給者でなく、自らの体験を生かして地域において、新たな福祉を創り出す役割を担うべきではないだろうか。今まで、他の各市町村の障害者との関係性を考えると、つくりにくい傾向があったが、今後は今まで以上に人と人とのつながり、障害者同士のつながりを大事にして、そこから信頼や共感が生まれる関係をつくり、地域福祉につながることを望ましい。

そうした「つながりの福祉」の取り組みを50周年という契機に、さらに団結を強め障害者の自立と共生社会の推進を目指して、茨城県身体障害者福祉協議会の一層の発展に向けて、また一つひとつ積み重ねていきたいと思えます。



茨身協設立 50 周年記念誌発行に 寄せて押せて

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
理事 立村 忠
(小美玉市)

本協議会の設立50周年記念式典が小美玉市四季文化館「みの〜れ」において開催され、県内関係機関並びに各市町村の身体障害者福祉協会の会長を中心に大勢の会員の皆さん、また、公私多忙な中にもかかわらず、国会議員の先生方々、開催地の島田穰一小美玉市長並びに地元選出の島田幸三茨城県議会議員に御臨席を頂き、式典が盛大に挙行されました。

このような一大行事にあたり、実行委員の一人として僅かながら役立つことが出来たことへの喜びを噛みしめ、再度、素晴らしい経験が出来たことに対し心より嬉しく思っているところであります。

当日は、本県の障害者福祉の向上に貢献された諸氏に対し大井川和彦知事並びに高木昇茨城県身体障害者福祉協議会長より感謝状、表彰状の贈呈が行われました。この式典を当小美玉市四季文化館に選んで頂きましたこと、また、同市の島田市長及び関係各位並びに同市社会福祉協議会の関係各位に大変なご協力を頂きましたことに感謝の念を忘れることができません。

顧みれば本協議会の設立は、1967年5月であります。結成創成期は大変御苦勞の多い日々であったことと推測しております。この時から数えて50年、半世紀と言う長期にわたり我々の諸先輩の弛まぬ努力によって築き上げてきた組織を現高木会長や役員各位に申し送りのバトンを引き継がれたこと、只々、敬意を表するところであります。

私たちは、今、何をすべきかを考えます時に、すべての障害者の希望に沿うべく、バリアフリーやノーマライゼーションの精神に則り、さらなる進展を遂げなければなりません。幸いにして、本県においては障害者差別解消法施行の1年前に「障害のある人もない人も共に歩み幸せに暮らすための茨城県づくり条例」が施行され、これを受けて、一層の努力と奮起を重ね、障害者が健常者に臆せることなく、快適な日常が送れることを願うものであります。



東海村身障協設立 50 周年の 思い出と今後の課題

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
理事 岸 三 男
(東 海 村)

東海村身体障害者福祉協議会は、昭和42年7月2日に設立総会を開催し、会の活動を開始しました。その後、会員の尽力で活動を続け、平成29年7月で設立50周年を迎えることができました。

設立当時は那珂地区スポーツ大会が開催されておりました。大会に会の旗のもと揃いのユニホームで参加し、優勝を争う活発な活動を展開してきました。町村合併でスポーツ大会が中止となり、会の活動も衰えてきました。そこで、会の活動を再び活発にしようと考えて、平成9年より一泊機能回復訓練を年に2回、日帰り機能回復訓練を年1回新たな行事として開催することにしました、

一泊機能回復訓練では、日中は神社や名勝地、博物館や記念館等を歩行訓練を兼ねて見学しました。夜は、宿泊先で親睦と交流を図るためカラオケ等で懇親会を実施しています。一つの懇親会でも大いに盛り上がり目的を十分に達成しています。平成29年3月の夜の懇親会では盛り上がり過ぎて、時間延長で追加料金を取られましたが、これで良いのだと思います。行事については以上のように活発に活動していますが、会員の高齢化で参加者がいつも20名前後と横ばいの状態で、このままでは会の存続が危ぶまれます。

今後、会を継続していくためにも会員増強が重要な課題です。ただ、会員加入の呼びかけは、身障協だけでは個人情報保護の関係でできません。この現状を行政や社協の関係者にも知っていただくため、宿泊先で実施していた総会を村内で開催することにしました。総会の挨拶の中で会員増強について支援をお願いしていますが、なかなか思うように進展していません。今後、村の広報誌や「社協だより」で身障協への入会案内を掲載して貰えるよう、行政や社協の関係者と相談してみます。

以上のような取り組みをし、伝統ある東海村身障協の活動を末長く続けていく考えです。



設立 50 周年記念式典を迎えるに当たり

一般社団法人

茨城県身体障害者福祉協議会

理事 米川正典

(銚田市)

平成29年11月9日に小美玉市四季文化館「みの〜れ」にて、多数の来賓の方々を迎えて、盛大に式典が挙行されましたことは、関係各位の皆様の深いご理解の賜物と改めて感謝申し上げます。

顧みますと、本協議会は、昭和42年5月に任意団体として結成し、平成15年4月には任意団体を法人化し、それから10年度後の平成25年4月には一般社団法人に改組しました。先輩諸氏の苦勞と努力とそして、現在の高木会長を筆頭に各理事の方々及び事務局に心より厚く感謝を申し上げます。

私は、昭和45年7月に交通事故により右足を切断、入院中に父親の戦友が「片足義足」見舞いに来られて励まされ、翌年、障害者であるも運転免許を取得して、一般の会社に入りました。当時は、偏見、差別等があり、何度となく退社を考えましたが、良き相談相手に恵まれ、48年間務めることができました。平成20年には、銚田市、身体障害者福祉協議会の会長に推され、現在も活動中です。

銚田市は鹿行地域に位置し、銚田市身障協は、現在、鹿嶋、潮来、行方、神栖の身体障害者福祉協議会の他、多くの関係機関やボランティアの方々のご協力を得て、運動会、スポーツ大会、「グラウンドゴルフ」等が盛んに行われています。

しかし、年々、会員が高齢化し、参加者が減少し、新規加入者の確保が難しい中、潮来市の中山康雄名誉会長から「茨身協の理事を引き受けてくれないか」と声掛けを頂き、不安の中、平成26年5月に高木会長はじめ各役員との出会いにより茨身協を知ることができました。会議の中で各理事が障害者に対する思いを知る中、各市町村が合併により、ところによっては身体障害者福祉団体そのものの存在がなくなっている地域があると知り、驚いており、行政はもっと障害者に対して理解をはかるべきだと感じております。

国では、毎年のように障害者に対し優遇措置を発令し、障害者を取り巻く環境は日々、変化、前進していると思います。今後は、私も茨身協の役員として全身全霊をもって、障害者健常と健常者が共同し、ノーマライゼーションの理念に基づき、地域発展のために精進して参りたいと存じます。

結びに、50周年記念式典にご協力頂いた各位、関係機関並びに会員の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げます。



50周年記念を迎えて

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
理事 今泉 武
(牛久市)

私が、鉄工所を開業したのが丁度50年前でした。

その頃は、健常者のため、障害を持っている方に対してあまり関心はありませんでした。

そして、開業して10年目に作業中、車の荷台より後ろ向きに落下し、脊髄損傷を負いました。

入院して考えたこと、①閉じこもりになるか、②施設に世話になるか、それとも、③今までの事業を継続するか考え、今までの仕事を継続することを決めました。これが、現在までのいきかたです。

健常者で仕事をやっていた時より売上げは4倍にもなった時がありました。

ケガをして3年位たった頃、国際障害者10年、その後、アジア障害者10年ということがあり、一般の方に理解を得ることが出来ました。

顧みれば、病院に2年、県立リハビリテーションに1年お世話になりました。当時は、自分が障害を持っているため、施設より一步も外出したことはなかったのです。恥ずかしかったんですね。

退所して、元の仕事に向かったのですが、外出しなければ仕事になりませんので、そのうち、自然と慣れて来ました。

県立リハビリテーションセンターにおいて、スポーツ関係ではアーチェリーをやっていました。その3年後に島根県で開催された全国身体障害者スポーツ大会に茨城県代表として参加し、優勝しました。そのとき、当時の皇太子殿下（今上天皇）よりお言葉を頂き、記憶に残っております。

数年前には、厚生労働大臣表彰、黄綬褒章を頂き、障害を持ってからの方が幸運に恵まれました。アーチェリーを10年、その後、車いすマラソンと、昨年まで続け、全国を歩くことが出来ました。



設立 50 周年を記念して

一般社団法人

茨城県身体障害者福祉協議会

理事 齊藤茂雄

(取手市)

茨城県身障協の設立50周年を記念しての第一の思い出は、身障者のための「山の集い・銀輪の集い」であります。その目的は「身障者の社会参加促進を図るために、障害者の方が自然の中で機能回復訓練を行うことを通じて、障害者相互及び地域社会の友愛の輪を広めて行くこと。」と記されております。

その実績は下表のとおりです。

年度	期日	開催場所	宿泊先
平20	9月29～30日	高萩市 小山ダム	五浦観光ホテル
21	9月17～18日	行方市 白浜少年自然の家	かんぼの宿 潮来
22	9月16～17日	石岡市 八郷総合運動公園体育館	つくばグランドホテル
23	10月6～7日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	いこいの村 湊沼
24	10月4～5日	下妻市 砂沼広域公園	つくばグランドホテル
25	10月3～4日	大子町 大子広域公園	思い出浪漫館
26	9月25～26日	神栖市 神之池緑地公園	鹿島セントラルホテル
27	11月5～6日	つくば市 洞峰公園	つくばグランドホテル
28	10月27～28日	ひたちなか市 国営ひたち海浜公園	大洗パークホテル
29	10月26～27日	下妻市 砂沼広域公園	つくばグランドホテル

小生、健康に恵まれ足腰には自信がありましたので、過去十年間連続で参加させて頂きました。

平成20年度は、小山ダム、次いで白浜自然の家と続き、好天に恵まれ、普段、見たことのない景観を眺めながらの訓練でした。平成22年度は八郷総合運動公園で大雨の中参加しましたが、屋外活動はすべて中止となり、体育館での行事となりました。ぶどう狩りが中止となり、とても残念でした。近年では平成28年度は、国営ひたちなか海浜公園で開催されましたが、晴天に恵まれ、定められたコースを遊歩し、一汗流し訓練を終え、芝生で弁当を頂くことができました。

その後、我々は「コキア」見学に行きました。十月下旬であり、小高い丘は真赤に染まり、見事な景観で、外国人も大勢見学に来ておりました。丘の頂上に登ると海が見え、海の青とコキアの赤とのコントラストが絶景でした。夜は大洗パークホテルに泊まりました。以上が今までの感想です。

連続10年参加の訳は、①平成16年3月に取手市役所を退職し自由の身になったこと、②平成20年度に取手市身障協の会長職を仰せつかったこと、③取手市が当該県事業に障害福祉課の職員を派遣し、我々障害者を支援してくれたこと、④二日目の自主研修では名所旧跡等を見学し、昼食を喰して帰宅できたことです。

樹齢7200年とも言われている屋久島の縄文杉を見に行きたいと思っております。この杉は、自生する日本最長老の植物だからです。標高1300メートルの高地に自生し、巨木であり栄養分は主に自らの枝が落ちて3～5年かけて堆肥化したもののみで化学肥料等は一切使われていないそうです。小生も長寿と健康に肖りたいと思っております。



五十周年に思う

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
理事 服部佳子
(下妻市)

人生の運不運は予測出来ないと言う。「人間万事塞翁が馬」。足が悪くなければと何度思った事でしょう。しかし、そのお陰で多くの温かい人に出会い、楽しい人生を送ることができました。はじめに、私と結婚してくださった旦那様と子供達に「ありがとう」と言いたいです。

高等学校での「マラソン」と「筑波登山」、また、「一緒に泣くことの楽しさ程、人の心を結びつけるものはない」ということを身をもって教えてくれた友達、恩師との出会いも忘れられない思い出です。スケートをやりたくて、縄跳びの練習をしたり、富士登山も七合目まで登りました、等々。今となっては、はるか夢の様です。

30代後半、一步も足が進まなくなった時、はじめて自分の足の怖さを感じました。「今、出来るうちに」、それがボランティアに入るきっかけとなりました。それも理解ある家族の後押しがあったからと感謝しています。ホームヘルパーの資格も下妻市社会福祉協議会の職員が「駄目で元々、申込んでみたら」のアドバイスで3級と2級の資格を取ることができました。自然医学、半断食道場も体験しました。障害者手帳は40歳を過ぎてからいただきました。

下妻市障害者相談員、生活支援員、施設ボランティアは20年続けました。ふれあい電話、傾聴ボランティア、みんな温かい仲間と皆さんに支えられてここまで来ました。

「障害のある人もない人も共に歩み幸せに暮らすための茨城県づくり条例」が施行された今、こうして茨身協設立50周年記念誌に寄稿できるチャンスを与えてくださり感謝しております。

スイミング、ラジオ体操を日課に健康に気を付けて少しでも障害者のためにお役に立てるよう頑張っ参りたいと思います。

50周年記念誌発行誠におめでとうございます。



祝茨身協 50 周年・青年部会 22 年

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
理事 村上克行
(茨身協青年部会)

昨年 11 月に、茨城県身体障害者福祉協議会設立 50 周年記念式典が盛大に行われたこと、関係者協力のもと、盛大開催されたこと心からお喜び感謝申し上げます。

私は、平成 8 年青年部設立から本協議会に関わらせてもらいました。当時私は 19 歳で何もわからず「不安」だけを胸に設立委員会に主席しました。本協議会の役員の方や各市町村の方で無事設立されました。

今泉武部長のもと私は副部長となり運営が始まり、どういう事業をすれば良のかを運営委員会を重ね本協議会理事の方に助言していただきながらスタートしました。

まず始めはクローバーズクラブの協力をいただき「友愛の集い・ボウリング大会」を神栖市のアトンプレスで行いました。今泉部長・地元の運営委員や会長さんのお力添えいただいたおかげで約 60 名の参加でした。

同じ年、ゆうあいカラオケ歌謡大会、部長が牛久市でも行っているのを青年部でもと事業としはじめました。日頃皆さんに親しむカラオケなのでとても多い参加をいただきました。

翌年には若人の集い「体験発表・講演会」。ゆうあい卓球大会の年 4 つを青年部の事業とし運営委員がブロック持ち回りで会場見つけて、運営までおこない仕事をしながら大変な反面、やりがいがありとても良い経験でした。

若人の集いは趣向をかえ様々な事をやりました。バス観光・ボウリング大会・障害者スポーツ体験・霞ヶ浦遊覧等、そして各事業いつも参加者多く嬉しいことでした。

平成 16 年から部会長になり理事、皆様にご指導、ご協力をいただきとてもありがたいことと思っています。これからは青年層の参加を多く広めより良い「茨身協青年部会」にしていきたいと思っています。



茨城県身体障害者福祉協議会 設立 50 周年記念に思う

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
前副会長 **清 水 晴 美**
(石 岡 市)

私は、平成8年に石岡市身体障害者福祉協議会の会長に推され、翌9年5月に県央地区から本協議会の理事になり、平成20年5月からは副会長に就任しました。

毎年、県身体障害者スポーツ大会や山の集い・銀輪の集い、また、一泊旅行等楽しい思い出をたくさんありがとうございました。

私は、今年（平成30年）の3月に石岡の身障協の会長を辞め、5月に茨身協の副会長及び理事を退任しました。

このように長きにわたり、地元団体の会長及び茨身協の副会長及び役員を務めることが出来たのは、偏に皆様方の御支援、御協力の御蔭と思い、深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の御健康、御発展、茨身協のさらなる発展を祈念して結びのことばといたします。



記念誌発行によせて

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
前理事 倉橋 要 義
(城 里 町)

この度は茨城県身体障害者福祉協議会が50周年の大きな節目を迎え、さらに五十周年記念誌の刊行を見るに至りましたことは、誠にご同慶の至りであります。

初度より携われた方々には産みの苦しみは勿論のこと、長い間の育ての苦労もあったことと存じます。

この機会に県身障協役員の方々には深甚なる謝意を表する次第であります。

さて、ここで少し我が城里町身体障害者福祉協会について振り返ってみますと、いわゆる平成大合併により、1町2村（常北町、桂村、七会村）をもって、平成17年7月1日設立の運びとなりました。

本会発会当時の会員数は57名でありました。合併後、もっとも腐心したことは会員相互の融和を図ることでした。

どこと言ってことを進める上において大差があるわけではないのですが、すんなり溶け込みきれない。それではとすることで、研修会を実施したりゲーム（輪投げ、玉入れ、パン食い競争）を取り入れたり、他団体との交流を積極的にすすめ、一例をあげれば知的障害通所施設「つくし」の若者達との会食や遊戯を見学したりして、何とか楽しみを創出しながらやって参りました。

しかしながら、設立当初の会員数57名が平成29年4月1日現在では、30名（3名は賛助会員）まで減少し、当会の将来に思いを致すとき、将来へのビジョンを書き上げることは、非常に困難なことです。

個人的に夢想しているに過ぎないですが、国会議員の選挙区の区別をめぐって合区などという問題が表面化している中、我々もやがては必然的にそうした方向に向うことになるのかもしれないでしょう。そのように思う昨今です。

記念誌発行を祝して。



茨城県身体障害者福祉協議会設立 50周年を記念して

一般社団法人
茨城県身体障害者福祉協議会
監 事 原 田 保 男
(行 方 市)
更生援護功労者受賞者代表

この度は茨城県身体障害者福祉協議会設立50周年を迎え、記念事業として記念誌が発行されますことを心よりお喜び申し上げます。関係者の皆様には深く敬意を表します。

記念式典では行方市から、10名の会員を表彰していただき、行方市の代表として誠に嬉しく思います。

また、私自身も茨城県身体障害者福祉協議会役員の皆様や各地区会長の皆様の前で代表として表彰を受けさせていただき、誠にありがとうございました。

私は、北浦町身体障害者福祉協議会に平成10年に入会してから行方市身体障害者福祉協議会となった現在まで理事や会長などをさせていただき、会の中心として運営や行事の企画等に関わってきました。

行方市では年に2回、移動研修を行っております。会員のニーズに合わせて、県内はもちろん福島県や埼玉県、群馬県などに足をのぼして、観光や食事、移動中の車内でのレクリエーションを通して会員の親睦を深めております。また、多くの会員が集まるこの機会を利用して、今後の活動について話し合っております。他にも移動研修やスポーツ大会等の行事に参加できない会員に対して、訪問をして交流をする「ゆうあい訪問事業」を行っております。

今後の行方市の活動としては、会員交流の場として、スポーツ関係の行事を行っていきたいと考えております。以前にもスポーツ関係の行事は行っておりましたが、高齢化等の理由で参加人数が減っていき、現在まで行っておりませんでした。鹿行地区で開催する事となった「グラウンドゴルフ大会」や最近話題となっている「ボッチャ」を青年部会の行事「若人の集い」で体験したことをきっかけに、市内での練習会を行いたいという声が出てきました。

そこで、難しい段取りをせずに都合のつく会員が気軽に集まれる場を用意して、少人数でも練習できるような体制を作っていきたいと考えております。

入会して数十年となりますがこれからも行方市身体障害者福祉協議会会員として会の充実に努めていきたいと思っております。



設立五十周年記念式典に参加して

大子町身体障害者福祉協議会

前会長 石井弘文

自立更生者受賞者代表

日頃、私たちの障害者福祉協議会にご協力をいただきまして、また、ご指導とご支援を賜っておりますことに改めまして心から感謝申し上げます。

さて、昨年、平成29年11月9日、小美玉市四季文化館「みの〜れ」にて、茨城県身体障害者福祉協議会設立50周年記念式典において私のような未熟者が、大子町障害者から只一人選ばれて、また、県内の「自立更生者」13名の代表として、茨城県身体障害者福祉協議会会長表彰を受けまして、私にとって最初で最後の表彰になりました。これも身体障害者福祉協議会の皆さま方のご協力とご支援により、私の人生の1ページとして残り、宝物になりました。

長い人生を皆さんと一緒に今日まで歩んできた御蔭であり、この表彰も皆さんとの「絆」で得られたものであると心から思っております。これから先も絆を大切にスポーツや山の集い・銀輪の集い、研修会そのた諸々の会に出席して皆さんと共に交流を図り、そして絆を大切にして、今後ともご指導とご支援を賜りますよう心よりよろしく願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健康とご発展をご祈念申し上げて、「自立更生者」代表として、一言お礼のことばと致します。ありがとうございました。



設立五十周年記念式典に参加して

常総市身体障がい者福祉協議会

理事 染谷 八江子

感謝状受賞者代表

平成29年11月9日、小美玉市四季文化館で開催された茨身協設立50周年記念式典において、私が受賞いただけるとは、また、代表として壇上に登り、賞状をいただくとは思ってもおりませんでした。

常総市身障協 尾上会長からお話をいただいた際、御断りいたしました。是非にとのことので不安の中、受けました。

会場に入ると大勢の人たちで驚きました。受付を済ませ、控室に入ると各会長さん達がお揃いの中、とても緊張しました。

厳粛の中、式典が始まり、壇上に登り、開式のことば、国歌斉唱の時、体が震えました。来賓祝辞、来賓の紹介と続き、自分の名前を呼ばれ賞状をいただき、とても心が熱く、感謝の気持ちで一杯でした。

茨城出身の歌手 奈良崎正明さんによる「歌謡トークショー」に会場が笑いに包まれ、私も楽しく拝聴しました。

未熟な私ではありますが、尾上会長さんのもと一步一步前に進めたらと願っております。どうぞ、これからも宜しく願いいたします。

第 4 章

茨城県身体障害者福祉協議会
設立 50 周年記念式典受賞者一覧

茨城県身体障害者福祉協議会 設立50周年記念事業顕彰者

1 茨城県知事感謝状受賞者

役職名	氏名	備考
名誉会長	中山 康雄	潮来市 身体障害者福祉協議会名誉会長
相談役	稲葉 富士夫	下妻市 身体障害者福祉協会会長
会長	高木 昇	常陸太田市 身体障害者福祉会長
副会長	清水 晴美	石岡市 身体障害者福祉協議会会長
〃	蛭田 洋伸	高萩市 身体障害者福祉協議会顧問
〃	松崎 昌樹	潮来市 身体障害者福祉協議会会長
〃	高野 重彦	龍ヶ崎市 身体障害者福祉協会会長
〃	中村 久夫	境町 身体障害者福祉協議会会長
理事	荻津 和良	茨城町 身体障害者福祉協議会会長
〃	倉橋 要義	城里町 身体障害者福祉協会会長
〃	岸 三男	東海村 身体障害者福祉協議会会長
〃	米川 正典	鉾田市 身体障害者福祉協議会会長
〃	今泉 武	牛久市 身体障害者福祉協議会顧問
〃	齊藤 茂雄	取手市 身体障害者福祉協議会会長
〃	尾上 孝俊	常総市 身体障がい者福祉協議会会長
〃	服部 佳子	下妻市 身体障害者福祉協会副会長
〃	村上 克行	龍ヶ崎市 茨身協青年部会長
監事	立村 忠	小美玉市 身体障がい者福祉協会会長
元会長	皆藤 庄三	小美玉市 身体障がい者福祉協会顧問
元理事	管野 武	神栖市 身体障害者福祉協議会顧問
〃	後藤 芳夫	行方市 身体障害者福祉協議会顧問

以上 21名

永年勤続（10年以上）職員

役職名	氏名	備考
書記	大森 智子	結婚相談員を兼務
〃	青山 千代美	就労支援相談員を兼務

以上 2名

2 更生援護功労者

古河市	宮 忠 士	取手市	杉 山 節 子
古河市	館 野 信 保	鹿嶋市	石 津 初 美
古河市	三 浦 賢 一	鹿嶋市	矢 内 昭 夫
石岡市	山 本 久 夫	潮来市	蟻 川 齊
石岡市	菱 沼 佑 胤	那珂市	鈴 木 栄
石岡市	高 桑 好 正	那珂市	藤 田 十 九
結城市	石 原 晴 男	那珂市	小 泉 幸 子
龍ヶ崎市	関 口 貞 夫	かすみがうら市	高 野 文 雄
龍ヶ崎市	朝日出 善 洋	かすみがうら市	石 塚 富 雄
龍ヶ崎市	寺 田 み え	かすみがうら市	今 戸 英 一
下妻市	塙 利 夫	行方市	原 喜美子
下妻市	本 田 三 夫	行方市	関 野 光 男
下妻市	堀 江 利 男	行方市	原 田 保 男
常陸太田市	黒 沢 進	東海村	宇 野 正 記
常陸太田市	小 室 恒 昭	東海村	佐 藤 治 雄
常陸太田市	和 田 守 男	河内町	秋 山 晃
常陸太田市	会 沢 友	境 町	初 見 智恵子
取手市	池 田 通 世		以上 35名

3 自立更生者

古河市	細 谷 寿 男	潮来市	塚 本 春 雄
結城市	落 合 祥 司	那珂市	引 田 京 子
龍ヶ崎市	菅 生 浩 司	桜川市	齋 藤 文 男
下妻市	本 橋 治	行方市	須 貝 長 平
常陸太田市	平 塚 貞 夫	東海村	塙 昇
牛久市	池 田 勇 一	大子町	石 井 弘 文
潮来市	飯 田 三 郎		以上 13名

4 感謝状受賞者

龍ヶ崎市	高 橋 英 雄	高萩市	野 崎 江美子
龍ヶ崎市	小 川 正 夫	笠間市	興 野 政 行
龍ヶ崎市	芳 住 久 江	取手市	山 村 夕 夕
下妻市	永 瀬 正 美	取手市	三 條 経 助
常総市	染 谷 八江子	取手市	大 出 四 郎
常総市	秋 田 弘	つくば市	木 村 勇
常総市	入 江 唯 芳	潮来市	飯 笹 雅 之
常陸太田市	石 井 嘉 行	潮来市	鈴 木 清
高萩市	高 岡 てる子	かすみがうら市	塩 田 栄

かすみがうら市	宮崎泰子	東海村	内山節代
かすみがうら市	荒木シマ	阿見町	渡邊君江
行方市	白戸信子	阿見町	小林和男
行方市	高野義雄	八千代町	馬場源一
行方市	大和田勝利	八千代町	内田泰成
行方市	越地信子	八千代町	佐久間峯子
行方市	川島恒男	境町	中村治策
銚田市	石山寛義	境町	中村紀美子
銚田市	戸沢しめ子	青年部会	伊藤東樹
銚田市	大山廣子	青年部会	保立静
つくばみらい市	池田昌晴	青年部会	高橋等
つくばみらい市	倉持豊	青年部会	丹下元孝
小美玉市	植田恵子	青年部会	星哲也
茨城町	藤枝完二	青年部会	小林直広
茨城町	玉井安彦	青年部会	仲本浩
城里町	大津一夫	青年部会	斉藤祐三
城里町	武井律子	青年部会	岡山郁夫
城里町	三村美代子	事務局	河原徳男
東海村	高槌誠	事務局	西連地絵里子
東海村	長嶋恵子		以上 57名

第 5 章

茨城県身体障害者福祉協議会の歴史

茨城県身体障害者福祉協議会の歴史

年 月	事 項 等
昭 4 1. 1. 2 6	<p>第 1 回 結成準備委員会を水戸市内県民生会館において開催（県社会福祉課及び県社会福祉協議会の支援）</p> <p>以後、第 2 回～第 8 回まで結成準備委員会を水戸市内で開催</p>
4 2. 5. 1 9 (1 9 6 7 年)	<p>茨城県肢体障害者福祉協議会結成大会を開催 於：水戸市 県民文化センター 500 余名参集 初代会長に設立発起人代表の川井国男氏（水戸市）が選出される。</p>
4 3. 2. 2 3	<p>会報「身障いばらき」創刊号を発行</p>
4 4. 4. 1	<p>事務局を県社会福祉課から川井国男宅に移す。</p>
4 4. 1 0. 9 ～ 1 0	<p>第 1 回役員研修会が太子町老人いこいの家で開催される。 講師 茨城大学 塚本勝義教授 「指導者としての基本理念について」等</p>
4 6. 9～1 0	<p>昭和 46 年度から身障者スポーツ大会地区大会が各県地方福祉事務所単位で開催されることとなった。</p>
4 7. 9. 1 0	<p>川井会長辞任し、第 2 代会長に佐川清一氏（里見村）が就任 事務局を川井国男宅にから佐川清一会長事業の関東ハウジング事務所内に移す。</p>
4 8. 4. 1 0	<p>茨身協、茨盲協及び茨聴連の 3 団体を加盟団体とする茨城県身体障害者福祉団体連合会が誕生 初代会長に佐川清一茨身協会長が就任</p>
4 8. 8. 1 (1 9 7 3 年)	<p>県立リハビリテーションが開設されたことにより事務局を県立リハビリテーションセンターに移転。 以後、事務執行については同センターの支援を受ける。</p>

年 月	事 項 等
昭 49. 7. 24	定期総会において名称を茨城県身体障害者福祉協議会と改称するが承認をされる。
49. 11. 2 ～ 3	第10回全国身体障害者スポーツ大会まごころ大会が笠松運動公園競技場で開催される。 (友愛の希望で結ぶ集いの輪) が成功裏に終了。
50. 7. 12	佐川清一会長が名誉会長になり，大脇一夫氏（笠間市）が第3代会長に就任
8. 20	第1回水の集い（県委託事業）を県立リハビリテーションセンター温水プールで開催。17名参加
11. 14 ～ 18	第1回友愛の旅（南九州方面4泊5日）を日本フェリー旅行社の協力を得て実施。213名参加 以後，平成24年度まで毎年，実施
11. 20 ～ 21	第1回山の集い（県委託事業）を笠間市吾国山登山道で開催（義足装置訓練（県委託事業）を正式に山の集いと改称 46名参加
52. 6. 11	第11回定期総会において，昭和52年度の事業計画案として，茨身協の法人化への準備を進めることが承認され，「法人化準備金」を積み立てて行くこととした。
52. 10. 22 ～ 27	第1回会員の翼海外福祉旅行（ハワイ）の実施（70名参加）
53. 2. 14	法人化について千葉県身連本部に出張し，実態調査を行う。大脇会長及び矢野倉顧問
53. 10. 14 ～ 20	第2回会員の翼福祉旅行（シンガポールとマレーシア）の実施（18名参加）
54. 3. 31	第1回銀輪の集い開催 水戸市桜川沿いのサイクリングロードの8.5kmのコースで実施（25名参加）

年 月	事 項 等
昭 6 1 . 1 2 . 9 (1 9 8 6 年)	<p>茨身協 20 周年記念式典開催（県立リハビリテーションセンター体育館）</p> <p>記念式典会場において大島火山災害救助義援金を募り、後日、茨城新聞文化福祉事業団に寄付</p>
平 5 . 5 . 2 4	<p>第 27 回茨身協定期総会において大脇一夫会長が退任され、野本善巳氏（境町）が第 4 代会長に就任</p>
6 . 3 . 2 7	<p>青年部結成準備委員会開催される。（県総合福祉会館）47 名出席。以後、平成 8 年 11 月 4 日の青年部会を設置に向け、協議した。</p>
6 . 5 . 1 6	<p>第 28 回茨身協定期総会において「青年部結成の推進」と茨身協の「法人化推進」等をスローガンとして掲げる。</p> <p>以後、両課題に重点的に取り組み、組織の強化と充実発展を図ることとした。</p>
8 . 7 . 1 5 (1 9 9 6 年)	<p>茨身協 30 周年記念事業準備委員会及び青年部設立準備委員会を開催（県立リハビリテーションセンター）</p>
1 1 . 4	<p>青年部設立委員会を開催（県総合福祉会館）し、茨身協に青年部を設置した。59 名出席</p>
1 1 . 2 2	<p>茨身協 30 周年記念式典を開催（県民文化センター）500 名出席</p>
9 . 7 . 1	<p>事務局を茨城県立リハビリテーションセンターから茨城県総合福祉会館（水戸市千波町）に移転</p>
8 . 5	<p>新県庁舎建設に関する県県庁舎建設局との懇談会（県総合福祉会館）皆藤及び吉田両副会長出席</p>
1 0 . 2 2	<p>新県庁舎建設に関する要望事項の対応説明会（県庁）高木副会長出席</p>

年 月	事 項 等
平 10.6.6～7	青年部第1回「ゆうあいの集い・ボウリング大会」を神栖町において開催 58名参加
9.20	青年部第1回「ゆうあいカラオケ歌謡大会」を茨城県県西生涯学習センター多目的ホールで開催 120名参加
11.5.21	第33回茨身協定期総会において野本善巳会長が退任され、皆藤庄三氏（美野里町）が第4代会長に就任
12.5.25	第34回定期総会において、平成12年度の事業計画（案）として「法人設立準備委員会」を設置して法人化を推進し、社団法人としての設立総会を開催して法人化を図ることが承認される。
13.4.1	募金活動を開始（市町村会員団体並びに県等関係にも募金を働きかけ、お願いした。）
13.5.21	<p>第35回定期総会において、13年度法人化推進事業特別会計事業計画書において、基本財産目標額として1,000万円及び運営資金目標額として300万円が示され、承認された。</p> <p>また、皆藤庄三会長が辞任し、中山康雄氏（潮来町）が第5代会長に就任し、社団法人化を進めることとなった。</p>
13.5.8	<p>13年度第1回「法人化設立委員会」を開催</p> <p>以後、14年2月22日まで、計7回の設立委員会を開催し、各市町村団体の募金目標額や募金活動の推進等を協議した。</p>
14.3.31	当日現在の募金額が、1,014万余円となる。
14.4.1	結婚相談員を採用し、結婚相談事業（県委託事業）を開始する。

年 月	事 項 等
平 14. 4.23	<p>14年度第1回法人化設立委員会を開催 募金状況報告や法人の定款案，設立総会等について協議。 また，第2回委員会を15年3月3日に開催</p>
15. 3.25	<p>水戸市民会館において，茨城県身体障害者福祉協議会解散総会を開催し，解散の決議を行う。 その後，社団法人茨城県身体障害者福祉協議会の設立総会を開催した。 法人設立後の役員については，中山康雄氏（潮来市）が，法人化後，初代会長に選任された。 定款付則により，社団法人設立当初の役員任期を平成16年3月31日までとした。</p>
15. 4.1 (2003年)	<p>社団法人茨城県身体障害者福祉協議会に改組される。</p>
18. 3.1	<p>茨身協のホームページを創設し，運用を開始</p>
20. 5.19	<p>平成20年度第1回通常総会において，中山康雄会長が退任し，荻津和良氏（茨城町）が第7代会長に就任 中山会長は名誉会長に就任</p>
20.12.1	<p>公益法人制度改革関連三法が施行となる。 施行後，5年以内に新制度に移行することが必要となる。</p>
22. 3.25	<p>21年度第2回通常総会において，「一般社団法人」を選択し，移行時期を平成24年度が法人役員改選時期になることから，これに合わせた時期を移行目標とした。</p>
25. 3.31	<p>社団法人茨城県身体障害者福祉協議会を解散</p>
25. 4.1 (2013年)	<p>社団法人から一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会に移行</p>

年 月	事 項 等
平 26. 5.29	平成26年度通常総会後の臨時理事会において、荻津会長が会長を退任し、高木 昇氏（常陸太田市）が第8代会長に就任
27. 6.18	<p>第1回茨身協・市町村団体の発展及び活性化対策検討委員会を開催し、本協議会及び市町村団体の組織強化及び発展について検討を開始した。</p> <p>以後、27年10月1日、27年12月11日及び平成28年2月9日の計4回「検討委員会」を開催し、「検討委員会結果報告書」をまとめた。</p>
27. 7.5～6	<p>県北及び県央地区市町村団体を対象に第1回団体交流支援事業を実施（史跡足利学校及び日光田母沢御用邸を視察：26名参加）</p>
27.10.26	<p>第2回団体交流支援事業を実施（県南地区団体を対象：日光田母沢御用邸を視察：18名参加）</p>
28. 6.24	<p>第1回茨身協設立50周年記念事業準備委員会を開催し、記念事業及び記念式典の内容の検討を開始し、第2回を9月23日、第3回を12月8日に実施した。</p>
29. 5.10	<p>第1回茨身協設立50周年記念事業実行委員会を開催し、記念式典等の実施内容の具体化検討開始し、第2回を8月4日、第3回は開催会場で10月16日に実施した。</p>
29. 8.29	<p>正副会長をメンバーとする顕彰委員会を開催し、記念式典において表彰される者の最終選考を行った。</p>
29.11.9	<p>茨身協設立50周年記念式典を小美玉市四季文化館「みの～れ」において開催した。</p>

茨城県身体障害者福祉協議会 法人化の歴史

年 月	事 項 等
昭 4 2 . 5 . 1 9 (1 9 6 7 年)	茨城県肢体障害者福祉協議会結成大会を開催
4 9 . 7 . 2 4	名称を茨城県身体障害者福祉協議会と改称する。
5 2 . 6 . 1 1	第 11 回定期総会において、昭和 52 年度の事業計画案として、茨身協の法人化への準備を進めることが承認され、「法人化準備金」を積み立てて行くこととした。
6 1 . 1 2 . 9 (1 9 8 6 年)	茨身協 20 周年記念式典を開催
平 6 . 5 . 1 6	第 28 回茨身協定期総会において「青年部結成の推進」と茨身協の「法人化推進」等をスローガンとして掲げる。 以後、両課題に重点的に取り組み、組織の強化と充実発展を図ることとした。
8 . 1 1 . 2 2	茨身協 30 周年記念式典を県立文化センターで開催
1 2 . 5 . 2 5	第 34 回定期総会において、平成 12 年度の事業計画（案）として「法人設立準備委員会」を設置して、法人化を推進し、社団法人としての設立総会を開催して法人化を図って行くことが承認される。
1 3 . 4 . 1	募金活動を開始。（市町村会員団体並びに県等関係にも募金を働きかけ、お願いする。）
1 3 . 5 . 8	13 年度第 1 回「法人化設立委員会」を開催。以後、14 年 2 月 22 日まで、計 7 回の設立委員会を開催し、各市町村団体の募金目標額や募金活動の推進等を協議
1 3 . 5 . 2 1	第 35 回定期総会にて、13 年度法人化推進事業特別会計事業計画書において、基本財産目標額として 1,000 万円及び運営資金目標額として 300 万円が示され、承認される。

年 月	事 項 等
平 13. 5. 21	また、皆藤庄三会長が辞任し、中山康雄氏（潮来町）が第5代会長に就任し、社団法人化を進めることとなった。
14. 3. 31	平成13年度末の本日現在の募金額が、1,014万余円となる。
14. 4. 23	14年度第1回法人化設立委員会を開催 募金状況報告や法人の定款案、設立総会等について協議。 また、第2回委員会を15年3月3日に開催。
14. 6. 4	14年度通常総会において平成13年度法人化推進事業特別会計事業報告及び収入支出決算報告等が承認される。
15. 3. 25	水戸市民会館において、茨城県身体障害者福祉協議会解散総会を開催し、解散の決議を行う。 その後、社団法人茨城県身体障害者福祉協議会の設立総会を開催した。 法人設立後の役員については、中山康雄氏（潮来市）が、法人化後初代会長に選任された。
15. 4. 1 (2003年)	社団法人茨城県身体障害者福祉協議会に改組される。
20. 12. 1	公益法人制度改革関連三法が施行となる。 施行後、5年以内に新制度に移行することが必要となる。
22. 3. 25	21年度第2回通常総会において、「一般社団法人」を選択し、移行時期を平成24年度が法人役員改選時期になることから、これに合わせ 社団法人茨城県身体障害者福祉協議会が解散
25. 4. 1 (2013年)	社団法人から一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会に移行

茨城県身体障害者福祉協議会 事務局変遷の歴史

年 月	事 項 等
昭 4 1. 1. 2 6	第 1 回 結成準備委員会を水戸市内県民生会館において開催（事務局は県社会福祉課）
4 2. 5. 1 9 (1 9 6 7 年)	茨城県肢体障害者福祉協議会結成大会を開催 初代会長に設立発起人代表の川井国男氏（水戸市）が選出される。
4 4. 4. 1	事務局を県社会福祉課から川井国男宅に移す。
4 7. 9. 1 0	川井会長辞任し、第 2 代会長に佐川清一氏（里見村）が就任。事務局を川井国男宅にから佐川清一会長事業の関東ハウジング事務所内に移す。
4 8. 8. 1 (1 9 7 3 年)	県立リハビリテーションが開設されたことにより 事務局を県立リハビリテーションセンターに移転 以後、事務執行については同センターの支援を受ける。
6 1. 1 2. 9 (1 9 8 6 年)	茨身協 20 周年記念式典開催（県立リハビリテーションセンター体育館）
平 3. 1 1	茨城県総合福祉会館が水戸市千波町の現在地に開館する。
8. 1 1. 2 2	茨身協 30 周年記念式典を開催（県民文化センター）
9. 7. 1	事務局を茨城県立リハビリテーションセンターから茨城県総合福祉会館に移転し、職員を採用する等、現在に至る。

第 6 章

茨城県身体障害者福祉協議会規程

定 款

広報委員会設置規程

青年部会設置規程

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会（以下「本会」という。）と称する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を茨城県水戸市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、身体障害者福祉に関する情報の提供、身体障害者の社会参加に関する事業等を行い、身体障害者の自立更生と福祉増進を図るとともに、身体障害者に関する県民の理解を深め、もって障害者と健常者が共同してノーマライゼーションの理念に基づいた地域社会を形成することに寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 身体障害者福祉に関する情報の提供に関する事業
- (2) 身体障害者同士又は身体障害者と健常者とのふれあい交流に関する事業
- (3) 身体障害者のスポーツ及び文化活動への参加促進に関する事業
- (4) 身体障害者の就労支援・相談及び雇用促進のための事業
- (5) 身体障害者の情報通信技術の利用及び活用促進のための事業
- (6) 身体障害者の結婚相談及び生活相談事業
- (7) バリアフリー化の促進に関する事業
- (8) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、茨城県において行うものとする。

第3章 会員

(法人の構成員)

第5条 本会に次の会員を置く。

- (1) 正会員 本会の事業に賛同して入会した県内の身体障害者団体
- (2) 賛助会員 本会の事業に賛同し、その事業を推進するために入会した個人又は団体
- (3) 名誉会員 本会に功労があった個人若しくは団体又は学識経験者で総会において推薦されたもの

2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の会員とする。

(正会員及び賛助会員の資格の取得)

第6条 正会員及び賛助会員になろうとする個人又は団体は、理事会が別に定めるところにより申し込みをし、正会員は理事会の承認を得なければならない。

(経費の負担)

第7条 正会員及び賛助会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(任意退会)

第8条 会員は、退会しようとするときは、その旨を会長に届け出ることにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

(1) 本会の定款又は規則に違反したとき。

(2) 本会の名誉を傷つけ、又は本会の設立の趣旨に反する行為をしたとき。

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

2 前項により除名しようとする会員には、当該総会の1週間前までに、理由を付して除名する旨を通知し、総会において、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。

3 除名が決議されたときは、その会員に対し、通知するものとする。

(会員資格の喪失)

第10条 前2条の場合のほか、会員は次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

(1) 正会員が会費を3年以上納入しないとき。

(2) 総正会員が同意したとき。

(3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

(抛出金品の不返還)

第11条 退会し、又は除名された会員が既に納入した会費その他の抛出金品は、返還しない。

第4章 総会

(構成)

第12条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

2 前項の総会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

(権限)

第13条 総会は、次の事項について決議する。

(1) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認

(2) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第14条 総会は、定時総会として毎年度5月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第15条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

(議長)

第16条 総会の議長は、当該総会において正会員の中から選出する。

(議決権)

第17条 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第18条 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の4分の3以上に当たる多数をもって行う。

(1) 会員の除名

(2) 監事の解任

(3) 定款の変更

(4) 合併等

(5) 解散

(6) 残余財産の処分

(7) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第21条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することができる。

(書面表決等)

第19条 総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって又は他の正会員を代理人として議決権を行使することができる。この場合において、当該正会員は、その総会に出席したものとみなす。

(議事録)

第20条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成する。

(1) 総会の日時及び場所

(2) 正会員の現在数

(3) 総会に出席した正会員の数（書面による議決権の行使及び議決権の代理行使を含む。）

(4) 審議事項及び決議事項

(5) 議事の経過、発言要旨及びその結果

(6) 議事録署名人の選任に関する事項

(7) その他法令に定める事項

2 議事録には、議長及び出席した正会員又は理事のうちからその総会において選出された議事録署名人2人以上が記名押印する。

第5章 役員等及び事務局

(役員を設置)

第21条 本会に、次の役員を置く。

(1) 理事 15名以上21名以内

(2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を、会長とし、5名以内を副会長とする。

3 前項の会長をもって一般社団法人及び財団法人に関する法律上の代表理事とする。

(役員を選任等)

第22条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。

(職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款の定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本会を代表し、職務を執行する。

3 副会長は、会長を補佐する。

4 会長は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、理事の職務執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、総会及び理事会に出席し、必要と認められるときには意見を述べる。

3 監事は、いつでも理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(任期)

第25条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠として任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、辞任により退任した場合又は任期満了の場合においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(解任)

第26条 理事又は監事に、理事又は監事としてふさわしくない行為があったときは、総会の決議によりこれを解任することができる。

2 第9条第2項及び第3項の規定は、前項の規定により理事又は監事を解任しようとする場合に準用する。この場合において、第9条第2項及び第3項中「会員」とあるのは「理事又は監事」と、「除名」とあるのは「解任」と読み替えるものとする。

(名誉会長等)

第27条 本会に、任意の機関として、名誉会長並びに若干名の顧問及び相談役を置くことができる。

2 名誉会長及び顧問は、かつて本会会長の職にあった者から選任する。

3 相談役は、多年本会役員職の職にあった者又は特に功労のあった者から選任する。

4 名誉会長、顧問及び相談役は、任期を定め、たうえで総会の決議により選任及び解任する。

5 名誉会長，顧問及び相談役は，会長の諮問に応え，会長に対し，参考意見を述べる
ことができる。

6 名誉会長，顧問及び相談役は，無報酬とする。

(役員報酬)

第28条 理事及び監事は，無報酬とする。

(事務局)

第29条 本会の事務を処理するため，事務局を置く。

2 事務局には，事務局長その他の職員を置く。

3 事務局長は理事会の決議により任免する。

4 前項以外の職員は，会長が任免する。

5 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は，会長が別に定める。

第6章 理事会

(構成)

第30条 本会に理事会を置く。

2 理事会は，すべての理事をもって構成する。

(権限)

第31条 理事会は，次の職務を行う。

(1) 事業計画書及び収支予算書の承認

(2) 本会の業務執行の決定

(3) 理事の職務の執行の監督

(4) 会長及び副会長の選定及び解職

(招集)

第32条 理事会は，会長が招集する。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは，各理事が理事会を招集する。

(議長)

第33条 理事会の議長は，会長がこれに当たる。

(決議)

第34条 理事会の決議は，決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半
数が出席し，その過半数をもって行う。

(決議の省略)

第35条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において，その提
案の議決に加わることができる理事全員が書面により同意の意思表示をしたときは，そ
の提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし，監事が異議を述べ
たときは除く。

(議事録)

第36条 理事会の議事については，次の事項を記載した議事録を作成する。

(1) 理事会の日時及び場所

(2) 理事の定数及び現在数

(3) 理事会に出席した理事の数

- (4) 審議事項及び決議事項
 - (5) 議事の経過, 発言要旨及びその結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
 - (7) その他法令に定める事項
- 2 出席した会長及び監事は, 前項の議事録に記名押印する。

第7章 資産及び会計

(事業年度)

第37条 本会の事業年度は, 毎年4月1日に始まり, 翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第38条 本会の事業計画書及び収支予算書については, 毎事業年度の開始の日の前日までに, 会長が作成し, 理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 前項の書類については, 主たる事務所に, 当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第39条 本会の事業報告及び決算については, 毎事業年度終了後, 会長が次の書類を作成し, 監事の監査を受けた上で, 理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 損益計算書(正味財産増減計算書)
 - (5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち, 第1号, 第3号, 第4号及び第6号の書類については, 定時総会に提出し, 第1号の書類についてはその内容を報告し, その他の書類については承認を受けなければならない。
- 3 第1項の書類のほか, 監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに, 定款及び会員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。

第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第40条 この定款は, 総会の決議によって変更することができる。

(合併等)

第41条 本会は, 総会の決議によって, 他の一般社団法人又は一般財団法人との合併, 事業の全部又は一部の譲渡をすることができる。

(解散)

第42条 本会は, 総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第43条 この法人が清算する場合において有する残余財産は, 総会の決議を経て, 公益

社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17項に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(剰余金の分配)

第44条 本会は、剰余金の分配を行うことができない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第45条 本会の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般社団法人の設立の登記の日から施行する。

2 この法人の最初の会長は、荻津和良とする。

3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と一般社団法人の設立の登記を行ったときは、第37条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

附 則

この定款は、平成28年5月25日から施行する。

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会広報委員会設置規程

(目的)

第1条 茨城県身体障害者福祉協議会内に広報委員会を設置して、身体障害者の福祉に関する各種情報の収集並びに身体障害者施策、本協議会の活動状況などを広報紙「身障いばらき」により、身体障害者はもとより県民各層に提供し、理解と協力を得ながら身体障害者の福祉の向上に寄与することを目的とする。

(広報委員会)

第2条 この委員会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 各種情報の収集及び提供に関すること。
- (2) 広報紙「身障いばらき」の編集に関すること。

2 広報委員会は、委員長が必要に応じ召集し、会議の議長となる。

(委員の選出及び任期)

第3条 この会の委員は、10人以内として各市町村身体障害者団体の代表者の中から理事会において選出して、総会の承認を受ける。

- 2 委員の互選により委員長1人、副委員長1人を置く。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。補充により選任された者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長への委任)

第4条 この規程にない事項は、広報委員会にはかり委員長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成13年5月21日から施行する。
- 2 広報委員会の委員は、役員改選までの期間は従前の委員とする。
- 3 この規程は、茨城県知事の設立の許可があった日から施行する。
- 4 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会青年部会設置規程

(目 的)

第1条 茨城県身体障害者福祉協議会（以下「茨身協」という。）内に青年部会を設置して、障害者のうち青年層を対象に社会参加の促進、自立更生、相互交流を図り、社会の理解と協力を得ることを目的とする。

(事 業)

第2条 青年部会は、前条の目的を達成するため、茨身協の事業のうち青年層を対象に次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 若人の集い
- (2) ゆうあい卓球大会
- (3) ゆうあいカラオケ歌謡発表会
- (4) その他目的達成に必要な事業

(部 員)

第3条 青年部会の部員は、茨城県内の市町村に在住で、年齢を原則として45歳までの者とする。

(役 員)

第4条 青年部会に次の役員を置く

- (1) 部会長 1人
- (2) 副部会長 2人以内
- (3) 運営委員 15人以内（部会長、副部会長を含む）
- (4) 相談役 若干名

(役員を選出及び任期)

第5条 青年部会の役員は、次により選出される。

- (1) 部会長及び副部会長は、運営委員の中から選出される。
- (2) 運営委員は部員の中から推薦された者とする。
- (3) 相談役は、かつて青年部会の役職にあった者とする。
- (4) 役員任期は、2年とし再任は妨げない。ただし、部会長及び副部会長は連続2期までとする。
- (5) 補充役員は、運営委員会の承認により選出し任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第6条 青年部会は、運営委員会を組織して第2条に掲げる事業の企画及び円滑な運営を行う。

- (1) 運営委員の委員は、第4条に掲げる役員とする。
- (2) 運営委員会は、部会長が必要に応じ招集し、会議の議長とする。

(部会長への委任)

第7条 この規程にない事項は、部会長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 13 年 5 月 21 日から施行する。
- 2 平成 8 年 11 月 4 日決定の茨城県身体障害者福祉協議会青年部規約は廃止する。
- 3 青年部会の役員は、役員選出までの期間は従前の役員とする。
- 4 この規程は、茨城県知事の設立の許可があった日から施行する。
- 5 この規程は、平成 20 年 5 月 20 日から施行する。
- 6 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 7 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

編 集 後 記

本協議会は平成 29 年に設立 50 周年を迎えました。

諸先輩が歩んできた道，業績，事業等を記録に残し，さらに発展させて後輩に引き継ぐことが私たちの重要な使命の一つと考え，50 周年記念誌を編集，発行することといたしました。

既に発行しました茨身協「二十年のあゆみ」（昭和 61 年 12 月発行）及び「30 周年記念誌」（平成 8 年 1 1 月発行）の構成内容を参考に編集作業を進めてきました。

「30 周年記念誌」においては、昭和 61 年以降，平成 8 年までの 10 年間に編集対象にしましたが、当「五十年のあゆみ」におきましては、茨身協の「主要事業の推移」及び「茨身協の歴史」の章におきまして，設立から 50 年間の事業の推移及び歴史をまとめ、また、新たに茨身協「法人化の歴史」「事務局変遷の歴史」を加えました。

50 年間のそれぞれの行事，事業は走馬灯のように過ぎて行きます。

しかし，一行一行の中に当時，事業に携わった役員，事務局，参加された会員の皆様の苦労や努力，また喜びを伺い知ることができ、一行一行に大変な重みを感じたところであります。

また，ご多用中にもかかわらず，記念誌発行の御祝いの御言葉をお寄せくださいました関係各位に衷心より感謝申し上げます。

最後になりましたが，皆様の御指導，御支援により発展してきました本会がさらに発展することを祈念して，簡単ではありますが、編集委員代表のあいさつといたします。

平成 30 年 12 月吉日

編集委員長 副会長 高 野 重 彦

一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会

設立 50 周年記念誌 編集委員名簿

委員 長	副 会 長	高 野 重 彦
副 委 員 長	副 会 長	蛭 田 洋 伸
委 員	副 会 長	荻 津 和 良
委 員	副 会 長	松 崎 昌 樹
委 員	副 会 長	中 村 久 夫
委 員	理 事	村 上 克 行 (青年部会会長)

事 務 局

事 務 局 長	河 原 徳 男
書記兼結婚相談員	大 森 智 子
書記兼就労支援相談員	青 山 千代美
書 記	西 連 地 絵 里 子

茨城県身体障害者福祉協議会 50周年記念誌

平成 30 年 12 月発行

発 行 者 高 木 昇

発 行 所 一般社団法人 茨城県身体障害者福祉協議会

水戸市千波町 1918 番地

茨城県総合福祉会館内

電 話 029 (243) 7010

印刷製本 株式会社 広 陽

水戸市愛宕町 2-23